

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	医療と臨床心理学／病院臨床心理学						
担当教員	小林 北斗						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	3～4	単位数	2.0
授業のテーマ	医療現場において臨床心理学がどのように活かされているかを学び、またそれらを通じて自己や他者の理解を促進する。						
授業の概要	『医療』は臨床心理学が実践されている現場の一つである。本講義では、医療現場において働く臨床心理士に求められる知識や具体的な臨床心理学的アプローチについて学習していく。また、医療の現場では、医師、看護師、その他様々な職種と関わり、連携していくことが求められる。そのため、本講義では、他職種と関わっていく上での留意点についても触れていく。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・精神疾患の基礎的知識 ・医療の現場で活かされている臨床心理学的知識、およびアプローチについての理解 ・自分自身や周囲の人々のメンタルヘルスについて考える力 						
授業計画	第1回 医療心理学 本講義についての概要 第2回 医療現場において心理職に期待されること 第3回 医療現場で求められる知識① 精神疾患 第4回 医療現場で求められる知識② 発達障害 第5回 医療現場で求められる知識③ 薬物療法 第6回 医療現場で用いられる心理技法① 心理アセスメント（知能検査） 第7回 医療現場で用いられる心理技法② 心理アセスメント（質問紙法） 第8回 医療現場で用いられる心理技法③ 心理アセスメント（投映法） 第9回 医療現場で用いられる心理技法④ 認知行動療法 第10回 医療現場で用いられる心理技法⑤ 認知行動療法（Ⅱ） 第11回 医療現場で用いられる心理技法⑥ その他の心理療法 第12回 医療現場で用いられる心理技法⑦ その他の心理療法（Ⅱ） 第13回 他職種との連携 第14回 講義全体の整理とまとめ 第15回 講義の理解度の確認 試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞やテレビなどで取り上げられているメンタルヘルスなどについて積極的に調べてほしい。 ・講義で話された内容の中で自分の興味のある内容について、自分で調べる姿勢を持ってほしい。 						
授業方法	適宜、資料を提示し、その資料に沿って講義を行う。また様々な心理尺度を使い、経験してもらう。						
評価基準と評価方法	試験60%、平常点30%、ミニレポート10%で評価する。						
教科書	特になし。参考文献に関してはその都度、講義中に紹介する。						
参考書	参考文献はその都度、講義中に紹介する。						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	英語で読む心理学A						
担当教員	久津木 文						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	心理学系大学院入試の専門英語対策。						
授業の概要	大学院進学には英文での専門的文章がある程度読める能力が必要である。よって、この授業では、心理学の基礎的な内容を英語で読むことを中心に進めていく。						
到達目標	大学院入試の心理の専門英語を読みこなせるようになる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 心理学のアプローチ 3. 心理学における問題 4. Cognitive psychology: origins of memory 5. Cognitive psychology: STM, LTM and duration 6. Cognitive psychology: nature of memory 7. Cognitive psychology: working memory 8. Developmental psychology: Early social development 9. Developmental psychology: attachment 10. Developmental psychology: Bowlby's theory 11. Developmental psychology: types of attachment 12. Perception: Top Down process 13. Perception: Bottom up process 14. Perception: Development 15. Perception: Nature-Nuture debate 						
授業外における学習(準備学習の内容)	英文で扱う内容は日本語で十分わかっていないと理解できない。よって、英文をただ機械的に訳す作業だけにとられず、扱われている内容を日本語で十分学習していくことが必須である。						
授業方法	論文講読						
評価基準と評価方法	課題(20%)、授業準備・ディスカッション(80%)						
教科書	適宜紹介						
参考書	適宜紹介						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	英語で読む心理学B						
担当教員	久津木 文						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	心理学系大学院入試の専門英語対策としての授業。						
授業の概要	大学院進学には英文での専門的文章がある程度読める能力が必要である。よって、この授業では、心理学の基礎的な内容を英語で読むことを中心に進めていく。						
到達目標	大学院入試の専門英語問題が解けるようになる、英語の論文に対する苦手意識を軽減する。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. Perception: Face recognition & Agnosia 3. Learning: Classical conditioning 4. Learning: Operant conditioning 5. Learning: Conditioning and behavior of animals 6. Social psychology: Conformity 7. Social psychology: Conformity to majority 8. Social psychology: Criticism and evaluation of conformity studies 9. Social psychology: Obedience to authority 10. Psychopathology: Definitions of abnormalities 1 11. Psychopathology: Definitions of abnormalities 2 12. Psychopathology: Biological approach 13. Psychopathology: Psychodynamic approach 14. Psychopathology: Behavioral approach 15. Psychopathology: Cognitive approach 						
授業外における学習（準備学習の内容）	英文で扱う心理学のトピックや内容を日本語でも十分把握しておくことが必須。						
授業方法	論文講読 発表形式						
評価基準と評価方法	課題（20%）、授業準備・ディスカッション（80%）						
教科書							
参考書							

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	カウンセリング基礎演習						
担当教員	安達 圭一郎						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	カウンセリング技法の基礎について概説するとともに、具体的技法の体験的習熟を目指す						
授業の概要	ロールプレイ（役割演技）を通して、援助的なコミュニケーションの方法を体験学習する。1対1でのカウンセリング場面を想定し、クライアントの「自信・元気・可能性・安心感」を引き出すための方法を学ぶ。						
到達目標	カウンセリング技法の基礎について、体験的に理解する。						
授業計画	第1回 授業内容と進め方についてオリエンテーション・グループ分け（自己紹介） 第2回 ロールプレイと討論 第3回 傾聴技法について（講義） 第4回 ロールプレイ1-1 傾聴 第5回 ロールプレイ1-1 傾聴 第6回 グループ報告とディスカッション、安全空間について（講義） 第7回 ロールプレイ2-1 ジョイニング 第8回 ロールプレイ2-1 ジョイニング 第9回 グループ報告とディスカッション、質疑応答、補足説明 第10回 ロールプレイ3-1 感情の支持 第11回 感情表出の意義について（講義） 第12回 ロールプレイ3-2 感情の支持 第13回 ロールプレイ3-3 感情の支持 第14回 グループ報告とディスカッション、質疑応答、補足説明 第15回 まとめとレポートの作成						
授業外における学習（準備学習の内容）	こうした技法が実際の臨床場面でどのように活用されているのか、書籍などを通じて理解を深めてほしい。						
授業方法	演習中心でおこなう。						
評価基準と評価方法	平常点60%（遅刻・欠席については減点の対象になる）、ロールプレイへの取り組み30%、レポート10%						
教科書							
参考書							

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	カウンセリング基礎演習						
担当教員	安達 圭一郎						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	カウンセリング技法の基礎について概説し、具体的技法についての体験的習熟を目指す。						
授業の概要	ロールプレイ（役割演技）を通して、援助的なコミュニケーションの方法を体験学習する。1対1でのカウンセリング場面を想定し、クライアントの「自信・元気・可能性・安心感」を引き出すための方法を学ぶ。						
到達目標	カウンセリング技法の基礎について、体験的に理解する。						
授業計画	第1回 授業内容と進め方についてオリエンテーション・グループ分け（自己紹介） 第2回 ロールプレイと討論 第3回 傾聴技法について（講義） 第4回 ロールプレイ1-1 傾聴 第5回 ロールプレイ1-1 傾聴 第6回 グループ報告とディスカッション、安全空間について（講義） 第7回 ロールプレイ2-1 ジョイニング 第8回 ロールプレイ2-1 ジョイニング 第9回 グループ報告とディスカッション、質疑応答、補足説明 第10回 ロールプレイ3-1 感情の支持 第11回 感情表出の意義について（講義） 第12回 ロールプレイ3-2 感情の支持 第13回 ロールプレイ3-3 感情の支持 第14回 グループ報告とディスカッション、質疑応答、補足説明 第15回 まとめとレポートの作成						
授業外における学習（準備学習の内容）	こうした技法が実際の臨床場面でどのように活用されているのか、書籍などを通じて理解を深めてほしい。						
授業方法	演習中心でおこなう。						
評価基準と評価方法	平常点60%（遅刻・欠席については減点の対象になる）、ロールプレイへの取り組み30%、レポート10%						
教科書							
参考書							

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	家族心理学						
担当教員	土肥 伊都子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	3~4	単位数	2.0
授業のテーマ	現代日本社会における家族の心理の理解						
授業の概要	現代日本の家族は、社会と密接な関係を保ちつつ変化している。たとえば、少子化、晩婚化、離婚の増加、母親の就労、高齢化などである。本講義では、夫婦関係、親子関係を中心に、それらの現代的特徴と心理的影響について学習する。						
到達目標	家族の抱える問題は、家族内だけではなく現代社会と密接に関連することを理解すること。						
授業計画	第1回 オリエンテーション 家族の定義、同一性、機能 第2回 生殖環境、家族アイデンティティ 第3回 夫婦の損得勘定 第4回 子どもの価値、睡眠習慣 第5回 現代の家意識 第6回 食生活からみた家族関係 第7回 ドメスティック・バイオレンス 第8回 映画鑑賞「黄昏」（父娘関係、老後の夫婦関係） 第9回 コミュニケーションの文化差 第10回 ワークライフ・バランス、多重役割 第11回 子どもの問題行動と家族関係 第12回 思秋期、老年期の家族関係 第13回 福祉と家族 第14回 質疑応答 第15回 後期試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業中に紹介する参考文献や、心理学科のサイトの推薦図書を自主的に読む。 授業で使用したスライドを各自で印刷して、復習する。						
授業方法	講義形式						
評価基準と評価方法	平常点30%、 定期試験70%						
教科書	なし						
参考書	「家族心理学」 榎本博明(編著) おうふう 2009						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	学校と臨床心理学／学校臨床心理学						
担当教員	黒崎 優美						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	3～4	単位数	2.0
授業のテーマ	教育的課題への臨床心理学的アプローチによる分析と理解						
授業の概要	<p>目的： 学校で起きているさまざまな問題について、臨床心理学的な観点から分析し、理解や援助のあり方を探ります。</p> <p>概要： 毎回具体的な教育的課題をテーマとして取り上げ、理論的な側面からだけでなく、臨床的素材やスクールカウンセラーの実践等についても紹介しながら理解を深めます。</p>						
到達目標	学校で起きている諸問題について理解を深めるだけでなく、児童・生徒として小・中・高等学校に所属していた過去の自分自身、そして大学という教育機関に学生として所属している現在の自分自身について考え、学び、発見し、成長することを目指します。						
授業計画	第1回 導入 ～学ぶことと学校の役割～ 第2回 集団力動と教育的課題 ～「空気」への臨床心理学的接近(1)～ 第3回 集団力動と教育的課題 ～「空気」への臨床心理学的接近(2)～ 第4回 集団力動と教育的課題 ～「学級崩壊」への臨床心理学的接近～ 第5回 集団力動と教育的課題 ～「いじめ」への臨床心理学的接近～ 第6回 子どもの心と教育的課題 ～「不登校」への臨床心理学的接近(1)～ 第7回 子どもの心と教育的課題 ～「不登校」への臨床心理学的接近(2)～ 第8回 子どもの心と教育的課題 ～「発達障害」への臨床心理学的接近～ 第9回 子どもの心と教育的課題 ～「学力低下」への臨床心理学的接近～ 第10回 教師の心と教育的課題 ～「期待」への臨床心理学的接近～ 第11回 教師の心と教育的課題 ～「ストレスと精神疾患」への臨床心理学的接近～ 第12回 教師の心と教育的課題 ～「体罰」への臨床心理学的接近～ 第13回 スクールカウンセラーの仕事 ～生徒指導と教育相談のあいだ～ 第14回 まとめと試験 第15回 総括						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習： 次回のテーマに関する課題を出すことがあります。 授業後学習： 授業で紹介する参考文献を読みさらに理解を深めて下さい。						
授業方法	講義形式						
評価基準と評価方法	平常点（授業レポートを含む）60%、期末試験40%						
教科書	なし。プリントを配布します。						
参考書	適宜紹介します。						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	学習心理学／学習心理学I						
担当教員	吉野 俊彦						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	人間を含む動物が、それぞれの環境で適応するための手段として学習がある。経験を通じて行動や考え方を变化させる学習の基礎過程を扱う。						
授業の概要	人間の行動のルーツを考えたとき、その多くが学習過程に依存していること気づく。人間が主体的に環境、とりわけ周囲の人間との関わりの中で様々な行動を獲得し、抑制している過程を説明するためには2つの条件づけを理解することが必須である。本講義では、行動分析学に軸足を置きながら、行動のメカニズムを探っていく。						
到達目標	人間の行動様式を支えているものが学習であることを理解する。 2つの条件づけの基礎過程を理解する。 一人ひとりの日常的な行動を行動分析学の視点から見つめられるようになる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション：学習について学ぶ 2. 様々な行動と学習との関わり：系統発生と個体発生 3. オペラント条件づけ1：行動とは何か・行動を説明する 4. オペラント条件づけ2：強化(1) 5. オペラント条件づけ3：強化(2) 6. オペラント条件づけ4：消去 7. オペラント条件づけ5：弱化 8. オペラント条件づけ6：阻止の随伴性とルール支配行動 9. パヴロフ型条件づけ1：獲得過程(興奮性条件づけ) 10. パヴロフ型条件づけ1：馴化と鋭敏化 11. パヴロフ型条件づけ2：消去と自然的回復 12. パヴロフ型条件づけ3：情報獲得の基礎過程としてのパヴロフ型条件づけ 13. 学習の応用1：行動分析学と認知・感情 14. 学習の応用2：行動療法・応用行動分析・行動マネジメント 15. まとめ 						
授業外における学習(準備学習の内容)	合計5回の小テストを行ない、また翌週の授業で扱うテーマについての宿題を評価対象とする。毎時間、宿題を踏まえたワークとディスカッションによって理解を深めるように進めるから、参考書を十分に読み、自分の頭で考えることが何よりも必要である。						
授業方法	授業は以下の3部から構成される。 小テストは授業の最初に行う。次に、宿題として考えてきてもらった課題を使ってのワークとディスカッションを行なう。最後にワークとディスカッションをもとにした解説を加えて、次回の授業で扱うテーマについての宿題を発表する。なお、小テストは5回、評価の対象となる宿題は10回分とする。						
評価基準と評価方法	小テスト(各10点×5回 = 50点)、宿題(5点×10回 = 50点)。宿題については、単に提出しているかだけでなく積極的に議論に参加しているかどうか、予習・復習によって内容を理解しているかどうかを評価する。						
教科書	指定しない。プリントを配布する。						
参考書	体系的な理解のため、また予習復習のために、各自で参考書で学んでほしい。 実森正子・中島定彦(2000). 学習の心理：行動のメカニズムを探る サイエンス社 杉山尚子(2005). 行動分析学入門 ―ヒトの行動の思いがけない理由 集英社新書 島宗理(2010). 人は、なぜ約束の時間に遅れるのか 素朴な疑問から考える「行動の原因」 光文社新書						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	基礎演習A／心理学調査法I						
担当教員	久津木 文						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	心理学への関心を形にしよう						
授業の概要	これから大学で「心理学」を学んでいくに当たって、心理学への関心を深め、自らが関心をもったテーマを発表資料として形にすることを目的とした授業です。具体的には、性格に関する文献講読を通じて心理学とは何か、心理学の考え方・調査方法を学び、自分で調べてみたいことを考えます。そして、後期「基礎演習B」で作成する質問紙のテーマを決定し、パワーポイント資料作成と発表を行い、自分の考えたことを人に伝える力を養います。						
到達目標	学生自身の興味を、心理学の概念、枠組みを用いて考えられるようになること						
授業計画	第1回 授業のオリエンテーションと自己紹介 第2回 図書館オリエンテーション 第3回 本を読む 第4回 性格に関する本を読む（1） 第5回 性格に関する本を読む（2） 第6回 性格を調べる 第7回 本の発表（1） 第8回 本の発表（2） 第9回 質問紙テーマの決定（1）－問いと仮説の作成 第10回 質問紙テーマの決定（2）－問いと仮説の発表とディスカッション 第11回 発表資料の作成（1）－パワーポイントの使い方 第12回 発表資料の作成（2）－パワーポイントの使い方 第13回 発表資料の作成（3）－作業、ファイル提出 第14回 個人発表（1） 第15回 個人発表（2）						
授業外における学習（準備学習の内容）	心理学の本を自発的に読む						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	授業での課題提出など平常点60%，授業態度20%，発表資料と発表20%						
教科書	「なぜ人は他者が気になるのか？人間関係の心理」 永房典之編著 金子書房 ISBN:978-4760830282						
参考書							

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	基礎演習A／心理学調査法I						
担当教員	黒崎 優美						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	心理学への関心を形にしよう						
授業の概要	これから大学で「心理学」を学んでいくに当たって、心理学への関心を深め、自らが関心をもったテーマを発表資料として形にすることを目的とした授業です。具体的には、性格に関する文献講読を通じて心理学とは何か、心理学の考え方・調査方法を学び、自分で調べてみたいことを考えます。そして、後期「基礎演習B」で作成する質問紙のテーマを決定し、パワーポイント資料作成と発表を行い、自分の考えたことを人に伝える力を養います。						
到達目標	学生自身の興味を、心理学の概念、枠組みを用いて考えられるようになること						
授業計画	第1回 授業のオリエンテーションと自己紹介 第2回 図書館オリエンテーション 第3回 本を読む 第4回 性格に関する本を読む（1） 第5回 性格に関する本を読む（2） 第6回 性格を調べる 第7回 本の発表（1） 第8回 本の発表（2） 第9回 質問紙テーマの決定（1）－問いと仮説の作成 第10回 質問紙テーマの決定（2）－問いと仮説の発表とディスカッション 第11回 発表資料の作成（1）－パワーポイントの使い方 第12回 発表資料の作成（2）－パワーポイントの使い方 第13回 発表資料の作成（3）－作業、ファイル提出 第14回 個人発表（1） 第15回 個人発表（2）						
授業外における学習（準備学習の内容）	心理学の本を自発的に読む						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	授業での課題提出など平常点60%，授業態度20%，発表資料と発表20%						
教科書	「なぜ人は他者が気になるのか？人間関係の心理」 永房典之編著 金子書房 ISBN:978-4760830282						
参考書							

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	基礎演習A／心理学調査法I						
担当教員	土肥 伊都子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	心理学への関心を形にしよう						
授業の概要	これから大学で「心理学」を学んでいくに当たって、心理学への関心を深め、自らが関心をもったテーマを発表資料として形にすることを目的とした授業です。具体的には、性格に関する文献講読を通じて心理学とは何か、心理学の考え方・調査方法を学び、自分で調べてみたいことを考えます。そして、後期「基礎演習B」で作成する質問紙のテーマを決定し、パワーポイント資料作成と発表を行い、自分の考えたことを人に伝える力を養います。						
到達目標	学生自身の興味を、心理学の概念、枠組みを用いて考えられるようになること						
授業計画	第1回 授業のオリエンテーションと自己紹介 第2回 図書館オリエンテーション 第3回 本を読む 第4回 性格に関する本を読む（1） 第5回 性格に関する本を読む（2） 第6回 性格を調べる 第7回 本の発表（1） 第8回 本の発表（2） 第9回 質問紙テーマの決定（1）－問いと仮説の作成 第10回 質問紙テーマの決定（2）－問いと仮説の発表とディスカッション 第11回 発表資料の作成（1）－パワーポイントの使い方 第12回 発表資料の作成（2）－パワーポイントの使い方 第13回 発表資料の作成（3）－作業、ファイル提出 第14回 個人発表（1） 第15回 個人発表（2）						
授業外における学習（準備学習の内容）	心理学の本を自発的に読む						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	授業での課題提出など平常点60%，授業態度20%，発表資料と発表20%						
教科書	「なぜ人は他者が気になるのか？人間関係の心理」 永房典之編著 金子書房 ISBN:978-4760830282						
参考書							

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	基礎演習A／心理学調査法I						
担当教員	待田 昌二						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	心理学への関心を形にしよう						
授業の概要	これから大学で「心理学」を学んでいくに当たって、心理学への関心を深め、自らが関心をもったテーマを発表資料として形にすることを目的とした授業です。具体的には、性格に関する文献講読を通じて心理学とは何か、心理学の考え方・調査方法を学び、自分で調べてみたいことを考えます。そして、後期「基礎演習B」で作成する質問紙のテーマを決定し、パワーポイント資料作成と発表を行い、自分の考えたことを人に伝える力を養います。						
到達目標	学生自身の興味を、心理学の概念、枠組みを用いて考えられるようになること						
授業計画	第1回 授業のオリエンテーションと自己紹介 第2回 図書館オリエンテーション 第3回 本を読む 第4回 性格に関する本を読む（1） 第5回 性格に関する本を読む（2） 第6回 性格を調べる 第7回 本の発表（1） 第8回 本の発表（2） 第9回 質問紙テーマの決定（1）－問いと仮説の作成 第10回 質問紙テーマの決定（2）－問いと仮説の発表とディスカッション 第11回 発表資料の作成（1）－パワーポイントの使い方 第12回 発表資料の作成（2）－パワーポイントの使い方 第13回 発表資料の作成（3）－作業、ファイル提出 第14回 個人発表（1） 第15回 個人発表（2）						
授業外における学習（準備学習の内容）	心理学の本を自発的に読む						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	授業での課題提出など平常点60%，授業態度20%，発表資料と発表20%						
教科書	「なぜ人は他者が気になるのか？人間関係の心理」 永房典之編著 金子書房 ISBN:978-4760830282						
参考書							

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	基礎演習B／心理学調査法II						
担当教員	久津木 文						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	調べて分析し、伝えよう						
授業の概要	心理学の調査方法でもっともよく用いられる質問紙調査について、簡単な質問紙を作成、実施、分析しながら学ぶことを目的とした授業です。前期の「基礎演習A」で形にした心理学への関心をもとに「質問紙」を作成し、質問紙調査で得たデータを、Excelを用いて分析します。そして、その結果を形式の整った心理学レポートにしながらレポートの書き方について学びます。最後に、調査結果を発表します。						
到達目標	学生自身の興味を、心理学の方法を用いて解明できるようになること						
授業計画	第1回 質問紙の作成 (1) 第2回 質問紙の作成 (2) 第3回 質問紙の作成 (3) 第4回 質問紙への回答 第5回 データの入力 第6回 データ分析：単純集計、基本統計量 第7回 データ分析：クロス集計、相関係数 第8回 データ分析：グラフの作成 第9回 論文作成：問題 第10回 論文作成：方法 第11回 論文作成：結果 第12回 論文作成：考察と引用文献 第13回 発表ファイルの作成 第14回 個人発表 (1) 第15回 個人発表 (2)						
授業外における学習 (準備学習の内容)	授業中の課題を復習し、Excelの操作に慣れておく						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	授業での課題提出など平常点60%，授業態度20%，発表資料と発表20%						
教科書							
参考書							

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	基礎演習B／心理学調査法II						
担当教員	黒崎 優美						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	調べて分析し、伝えよう						
授業の概要	心理学の調査方法でもっともよく用いられる質問紙調査について、簡単な質問紙を作成、実施、分析しながら学ぶことを目的とした授業です。前期の「基礎演習A」で形にした心理学への関心をもとに「質問紙」を作成し、質問紙調査で得たデータを、Excelを用いて分析します。そして、その結果を形式の整った心理学レポートにしながらレポートの書き方について学びます。最後に、調査結果を発表します。						
到達目標	学生自身の興味を、心理学の方法を用いて解明できるようになること						
授業計画	第1回 質問紙の作成 (1) 第2回 質問紙の作成 (2) 第3回 質問紙の作成 (3) 第4回 質問紙への回答 第5回 データの入力 第6回 データ分析：単純集計、基本統計量 第7回 データ分析：クロス集計、相関係数 第8回 データ分析：グラフの作成 第9回 論文作成：問題 第10回 論文作成：方法 第11回 論文作成：結果 第12回 論文作成：考察と引用文献 第13回 発表ファイルの作成 第14回 個人発表 (1) 第15回 個人発表 (2)						
授業外における学習 (準備学習の内容)	授業中の課題を復習し、Excelの操作に慣れておく						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	授業での課題提出など平常点60%，授業態度20%，発表資料と発表20%						
教科書							
参考書							

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	基礎演習B／心理学調査法II						
担当教員	土肥 伊都子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	調べて分析し、伝えよう						
授業の概要	心理学の調査方法でもっともよく用いられる質問紙調査について、簡単な質問紙を作成、実施、分析しながら学ぶことを目的とした授業です。前期の「基礎演習A」で形にした心理学への関心をもとに「質問紙」を作成し、質問紙調査で得たデータを、Excelを用いて分析します。そして、その結果を形式の整った心理学レポートにしながらレポートの書き方について学びます。最後に、調査結果を発表します。						
到達目標	学生自身の興味を、心理学の方法を用いて解明できるようになること						
授業計画	第1回 質問紙の作成 (1) 第2回 質問紙の作成 (2) 第3回 質問紙の作成 (3) 第4回 質問紙への回答 第5回 データの入力 第6回 データ分析：単純集計、基本統計量 第7回 データ分析：クロス集計、相関係数 第8回 データ分析：グラフの作成 第9回 論文作成：問題 第10回 論文作成：方法 第11回 論文作成：結果 第12回 論文作成：考察と引用文献 第13回 発表ファイルの作成 第14回 個人発表 (1) 第15回 個人発表 (2)						
授業外における学習 (準備学習の内容)	授業中の課題を復習し、Excelの操作に慣れておく						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	授業での課題提出など平常点60%，授業態度20%，発表資料と発表20%						
教科書							
参考書							

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	基礎演習B／心理学調査法II						
担当教員	待田 昌二						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	調べて分析し、伝えよう						
授業の概要	心理学の調査方法でもっともよく用いられる質問紙調査について、簡単な質問紙を作成、実施、分析しながら学ぶことを目的とした授業です。前期の「基礎演習A」で形にした心理学への関心をもとに「質問紙」を作成し、質問紙調査で得たデータを、Excelを用いて分析します。そして、その結果を形式の整った心理学レポートにしながらレポートの書き方について学びます。最後に、調査結果を発表します。						
到達目標	学生自身の興味を、心理学の方法を用いて解明できるようになること						
授業計画	第1回 質問紙の作成 (1) 第2回 質問紙の作成 (2) 第3回 質問紙の作成 (3) 第4回 質問紙への回答 第5回 データの入力 第6回 データ分析：単純集計、基本統計量 第7回 データ分析：クロス集計、相関係数 第8回 データ分析：グラフの作成 第9回 論文作成：問題 第10回 論文作成：方法 第11回 論文作成：結果 第12回 論文作成：考察と引用文献 第13回 発表ファイルの作成 第14回 個人発表 (1) 第15回 個人発表 (2)						
授業外における学習 (準備学習の内容)	授業中の課題を復習し、Excelの操作に慣れておく						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	授業での課題提出など平常点60%，授業態度20%，発表資料と発表20%						
教科書							
参考書							

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	行動観察法						
担当教員	志澤 康弘						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	2~3	単位数	2.0
授業のテーマ	行動観察法を修得すること、同時に科学的思考と統計に対する苦手意識を減らすこと。						
授業の概要	この講義では行動観察法を修得することを目的とする。 具体的には、問題の発見、研究計画、分析方法について行動観察に特有な方法を考慮しながら学ぶ。 また、行動観察に限らず、一般に人が苦手とする思考方法、確証バイアス、確率の無視という点についてを少しでも克服する方向に向けることをもう一つの目的とする。						
到達目標	適切に資料を参照しながら、研究（特に行動を扱った研究）の目標設定、分析、考察が行えるようになる。 科学的思考、例えば証拠を押さえるだけでなく反証がないことを言う必要性を理解できるようになる。 統計的仮説検定で使用される式の意味を説明できるようになる。						
授業計画	<p>行動観察の導入および体験（観察とレポート）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 行動研究の概要 2. 映像を見て観察を体験する 3. 映像を見て分析を体験する <p>行動観察法（講義）</p> <ol style="list-style-type: none"> 4. 問題の発見から研究の目的へ 5. 研究計画（何をどのように測定するか） 6. 行動の測定法（サンプリングの方式と記録の方式） 7. 行動の測定に関する留意点（信頼性と妥当性他） 8. 分析方法（概論） 9. 分析方法（基礎統計量） 10. 分析方法（差の検定） 11. 統計の基礎（相関、多変量解析） 12. データの取り扱い（厳密には間隔尺度ではないデータをどのように扱うかなど） 13. レポートを振り返りながらの復習 14. 行動観察のポイントと一般社会生活における仮説検証 15. これまでの講義のまとめと整理 						
授業外における学習（準備学習の内容）	2回目3回目は実習を行う。これについてレポートを作成する。講義資料を1回は読み返し、授業中に理解できなかった用語、考え方があれば再度資料等を読み返しそれでも不明ならば次回授業時間で質問できるよう準備する。						
授業方法	講義・実習						
評価基準と評価方法	レポート30%。試験70%。 授業に出席し参加することを前提とする（1回の欠席で1点減点とする、授業に参加していない態度を示す場合や、授業中に示した小レポートを提出しない、あるいはほとんど空欄で提出するなど、は評価上の出席とは見なさないことがある）。						
教科書							
参考書	P. マーティン & P. バイトソン 1990 行動研究入門 動物行動の観察から解析まで 東海大出版会 SBN: 4486011376						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心の医学／精神医学I						
担当教員	安達 圭一郎						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	精神疾患の代表とも言える「気分障害」について取りあげる。						
授業の概要	気分障害は、うつ病性障害、双極性障害、一般身体疾患による気分障害、物質誘発性気分障害の総称である（DSM-IV-TR）。こうした気分障害の発症件数は、1996年から2008年にかけて2.4倍にも増加してきたが、本人のみならず家族、同僚といった重要人物の理解は未だ乏しい。病相によっては死に至る病であることを念頭に、現在の知見を解説する。						
到達目標	気分障害の病状や治療、気分障害を持つ患者との関わりのあり方について理解する。						
授業計画	第1回 オリエンテーション	概要説明と受講用件の確認					
	第2回 気分障害とは①	DSM-IV-TRについて					
	第3回 気分障害とは②	気分障害発症の要因について①					
	第4回 気分障害とは③	気分障害発症の要因について②					
	第5回 気分障害とは④	気分障害の診断について					
	第6回 気分障害の症状について	性格と病気の違いについて					
	第7回 大うつ病性障害とは	病状について					
	第8回 双極性障害とは	病状について					
	第9回 気分変調性障害とは	病状について					
	第10回 気分障害の治療①	薬物治療について					
	第11回 気分障害の治療②	日常生活について					
	第12回 気分障害の治療③	心理療法について					
	第13回 気分障害の治療④	統合的アプローチの考え方					
	第14回 今後の課題	心理学を学ぶ者として、何が重要か。					
	第15回 まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	文庫本でも良いので、うつ病について取りあげた書籍、新聞記事などに目を通しておいてほしい。						
授業方法	講義形式と一部演習。						
評価基準と評価方法	受講態度30%、期末試験70%						
教科書							
参考書							

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心のふしぎ						
担当教員	黒崎 優美						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	心理学入門						
授業の概要	<p>目的： 日常生活における身近な事柄からいわゆる心の病まで、心をめぐって生じるさまざまな事柄について、考え、理解を深めることを目的とします。</p> <p>概要： 毎回、身近な、あるいは社会的に注目されているテーマを取り上げ、それらのテーマが心理学的にはどのように扱われ理解されているかを学びます。心理学を活かした職業や、心理学が社会のなかでどのように活かされているのかについても紹介します。</p>						
到達目標	<p>心理学的知識を得るだけでなく、新たな心のふしぎを発見し、それらについて考えるための道具として学んだことを活かせるようになることを目標とします。</p>						
授業計画	<p>第1回 心の発見と探求 ～心理学の歴史～ 第2回 心のなかをのぞいてみよう ～心的構造論(1)～ 第3回 夢をみる心 ～心的構造論(2)～ 第4回 心の誕生と世界のはじまり ～発達心理学(1)～ 第5回 心の成長と世界のまとまり ～発達心理学(2)～ 第6回 心の痛みを知る ～臨床心理学(1)～ 第7回 心の痛みと精神病理 ～臨床心理学(2)～ 第8回 心の状態を知る ～質問紙法による心理査定～ 第9回 心の状態を知る ～投影法による心理査定～ 第10回 心の痛みに向き合う ～行動主義的心理療法～ 第11回 心の痛みに向き合う ～力動主義的心理療法～ 第12回 人間に生きる心 ～社会心理学(1)～ 第13回 集団と個人の心 ～社会心理学(2)～ 第14回 集団の心とその病理 ～社会心理学(3)～ 第15回 まとめと試験</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	<p>授業前学習： 次回のテーマに関する課題を出すことがあります。</p> <p>授業後学習： 授業で紹介する参考文献を読みさらに理解を深めて下さい。</p>						
授業方法	講義形式						
評価基準と評価方法	平常点（授業レポート含む）60%、期末試験40%						
教科書	なし。プリントを配布します。						
参考書	適宜紹介します。						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	子育て支援の心理学						
担当教員	寺井 さち子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	3~4	単位数	2.0
授業のテーマ	現代社会における子育てのあり方について学び考えることをテーマとする。						
授業の概要	子育て支援に関する基礎知識を幅広い領域から学ぶため、心理学領域に限らず、教育的意義、医学的意義、社会福祉的意義を踏まえて広い知識の習得を目指す。						
到達目標	子どもを大切に育てることの心理学的意義を実感すること。						
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ①子育て支援とは ②子どもの位置づけの歴史と問題背景 ③子育ての使命と倫理 ④教育的意義について ⑤医学からの子育て支援 子どもの医学：妊娠から乳児期 ⑥医学からの子育て支援 子どもの医学：子どもの主な病気 ⑦臨床心理学からの子育て支援 乳児期から幼児期 ⑧臨床心理学からの子育て支援 幼児期から児童期 ⑨社会福祉からの子育て支援 家庭と地域 ⑩社会福祉からの子育て支援 高齢者の存在意義 ⑪子ども支援 海外に学ぶ ⑫子ども支援 遊びを通じた学び ⑬子育て実技 具体的対処について：子どもの病気 ⑭子育て実技 具体的対処について：子どもの怪我 ⑮総合的解説と到達度確認のテスト 						
授業外における学習（準備学習の内容）	地域の子育ての実態に日頃から関心を持って過ごすこと。						
授業方法	板書をしながら講義を行う。学生によるグループ討論などを行うこともある。パワーポイントやDVD鑑賞なども加えるが、その際は簡易レポート提出を求める場合が多い。						
評価基準と評価方法	評価は試験を中心に行うが、平常点は30%とし、欠席やレポート未提出の場合は減点する。						
教科書	「子育て支援」時潮社						
参考書	指定なし						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	産業カウンセリング論						
担当教員	千葉 征慶						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜1	配当学年	3~4	単位数	2.0
授業のテーマ	産業領域で「カウンセラー」として働くとは、誰に対して何を行うことなのか。基本的な技能として求められることはどんなことなのか。背景の知識としてどのようなことを身につけておく必要があるのか。こうした事柄を学びます。これから社会に出て働こうと望んでおられるみなさんにとって、心身の健康を保持増進して働いていくためには、今そしてこれから何か大切になるのか、これを体験学習を通して学ぶ機会になるものと思う。						
授業の概要	働く人々を対象にしたカウンセリング(カウンセラーの仕事)の実際を学ぶことを目的に、長年民間企業の産業カウンセラーを勤めてきた講師が、現場での仕事内容(社員教育とカウンセリング事例対応など)を紹介する。また、実際にカウンセリングを行っていく際に、とても重要となる基本的なスキル(傾聴のスキル)について体験学習し、ビデオ鑑賞を行い理解を深めます。また、背景知識として、キャリアカウンセリングの知見、労働衛生行政の歴史と法規にも触れる。						
到達目標	産業カウンセラーの仕事内容を理解すること。カウンセリングを行う際の基本的なスキルを身につけ、「今日の前の話し相手をわかる」手応えが感じられること。また、生きがいテストやキャリアカウンセリングの知見を学んで、自分自身のキャリアの発達(開発)について、考えられるようになること。働く人々の心の健康の保持増進のために、労働衛生行政の歴史があり、法律も制定されていることなどを理解できること。						
授業計画	第1回: ようこそ!産業カウンセリング論へ 授業のガイダンスなど 第2回: メンタルヘルス教育の実際① ストレス対策の4つのテーマ 第3回: メンタルヘルス教育の実際② 「ストレスは人生のスパイス」「鷹と鶏」の例え話 第4回: メンタルヘルス事例対応の実際 第5回: 面接相談の基本を学ぶ ① 聴けていますか? 相手のお話 第6回: 面接相談の基本を学ぶ ② 人の話の三つの要素 第7回: 面接相談の基本を学ぶ ③ " 練習を続けよう 第8回: 面接相談の基本を学ぶ ④ 感情に触れるフィードバック 第9回: 面接相談の基本を学ぶ ⑤ 感情に触れるフィードバック 第10回: 面接場面のビデオ鑑賞 第11回: 背景知識を学ぼう ① キャリアについて 自分の持ち味を活かす 「適材適所」という発想 第12回: 背景知識を学ぼう ② キャリアについて 「転機」のおとずれ 「ピンチをチャンスに」 第13回: 背景知識を学ぼう ③ キャリアについて 人生は「計画性」と「偶然性」のミックスジュース 第14回: 背景知識を学ぼう ④ 労働衛生行政の歴史と法規 第15回: まとめ、質疑応答 試験						
授業外における学習(準備学習の内容)	日々の体調管理。ご自身のケアをこころがけて「朝一番」の授業に遅刻しないよう体力、健康の保持に努めてください。期末になると「ブックレポート」課題図書が、「貸出し中」で手に入りにくくなります。早めに課題提出を心がけてください。						
授業方法	一方的な情報提供(講義)ではなく、体験学習をねらいとしたワークを授業に取り入れます。						
評価基準と評価方法	出席(遅刻の有無)重視。課題として、参考図書のブックレポートの提出。試験の成績を加味する。評価を数式で、敢えて表現すれば、下記の通りです。 成績100=授業態度(40)+課題(ブックレポート)(30)+試験(30)						
教科書	配布資料がテキストになります。また参考図書の一読が、課題(ブックレポート)に取り組むために、必要となります。						
参考書	新刊キャリアの心理学 渡部三枝子編(ナカニシヤ書房) これからの職場のメンタルヘルス 藤井久和編(創元社) フランクルを学ぶ人のために 山田邦夫編(世界思想社)						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	社会心理学A／社会心理学I						
担当教員	土肥 伊都子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	主に個人、対人レベルに関する社会心理学の習得						
授業の概要	個人の行動や態度、感情や性格などは、生育環境や現在の社会的環境、身近な他者の存在などによって大きく影響を受けている。反対に一人一人の行動が、思わぬ集合現象や集団的活動を引き起こす。本講義では、こうした個人と社会の相互影響についての理解をめざし、人間の対人あるいは集団行動に関する心理学的法則を学習する。I では主に、パーソナリティの社会的形成と対人関係について学ぶ。						
到達目標	心に対する社会心理学的アプローチを理解すること。						
授業計画	第1回 社会心理学とは 第2回 印象形成 第3回 帰属のモデル 第4回 帰属のエラーとバイアス 第5回 社会的認知とスキーマ 第6回 認知的斉合性と不協和理論 第7回 自己概念とアイデンティティ 第8回 社会的感情 第9回 社会的動機 第10回 対人魅力 第11回 社会的比較と主観的幸福感 第12回 態度と行動、説得 第13回 コミュニケーションと社会的交換 第14回 前期授業の補足、質疑応答 第15回 前期試験と後期授業の説明						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業中に紹介する参考文献や、心理学科のサイトの推薦図書を自主的に読む。 授業で使用したスライドを各自で印刷して、復習する。						
授業方法	講義形式						
評価基準と評価方法	平常点30%、定期試験70%						
教科書	なし						
参考書	池上知子・遠藤由美（共著） グラフィック社会心理学第2版（サイエンス社） 二宮克美・小安増生（編著） キーワードコレクション社会心理学（新曜社） 湯川進太郎・吉田富二雄（編） スタンダード社会心理学（サイエンス社）						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	社会心理学B／社会心理学II						
担当教員	土肥 伊都子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	主に集団，大衆レベルに関する社会心理学の習得						
授業の概要	社会心理学A（Ⅰ）に引き続き、B（Ⅱ）では主に、集団行動や大衆現象、身近な社会問題の領域について、人間の社会行動の心理学的法則を学習する。また、社会心理学の研究方法を学ぶために、具体的な研究例を数多く紹介する。						
到達目標	心に対する社会心理学的アプローチを理解すること。 自分の意見を効果的にプレゼンテーションすること。						
授業計画	第1回 個人と集団 第2回 集団の凝集性，意思決定，集団思考 第3回 集団規範 第4回 同調と服従，リーダーシップ 第5回 個人発表のための文献検索 第6回 文化と人間 第7回 援助行動 第8回 エコロジー 第9回 ストレス 第10回 ジェンダー 第11回 個人発表会Ⅰ 第12回 個人発表会Ⅱ 第13回 個人発表会Ⅲ 第14回 質疑応答 第15回 後期試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業中に紹介する参考文献や、心理学科のサイトの推薦図書を自主的に読む。 授業で使ったスライドを各自で印刷して、復習する。						
授業方法	講義形式 個人発表						
評価基準と評価方法	平常点20%， 発表10%， 定期試験70%						
教科書	なし						
参考書	池上知子・遠藤由美（共著） グラフィック社会心理学第2版 （サイエンス社） 二宮克美・子安増生（編著） キーワードコレクション社会心理学 （新曜社） 湯川進太郎・吉田富二雄（編） スタンダード社会心理学（サイエンス社）						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学調査法／社会心理学研究法						
担当教員	久津木 文						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	心理学調査。・実験に使う統計ソフトの操作の習得。						
授業の概要	心理学の調査法の一つとして質問紙調査がある。本講義では質問項目の作成から分析方法をカバーする。サンプルデータを用いた解析を各自行う。キーワード (spss 統計 卒論 分析)						
到達目標	卒論で使うであろう統計手法を s p s s で行えるようになる。よく使う統計手法の意味と数値の読み取り方がわかるようになる						
授業計画	1 心理学における調査とは1 2 心理学における調査とは2 3 質問紙の作成 4 データの種類：入力・反転処理・合成変数 5 単純集計 6 順位と複数回答の集計 7 クロス表の解析 8 二つの平均の差の検定 9 分散分析1 10 分散分析2 11 主成分分析 12 因子分析1 13 因子分析2 14 期末テスト 15 期末テスト解説						
授業外における学習 (準備学習の内容)	基本的なパソコンの操作などは自分でわかっておくことが必要。授業で習得した操作を自分ひとりでもできるようになるよう復習が必要。必要であれば、統計に関する書籍、ネットのサイトなどを補助的に利用すること。						
授業方法	講義・実習方式						
評価基準と評価方法	平常点 (授業態度・課題への取り組み等) 30%, 試験70%						
教科書	適宜紹介						
参考書	適宜紹介						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学調査法／社会心理学研究法						
担当教員	村上 嵩至						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	心理学調査・実験に使う統計ソフトSPSSの操作の習得。						
授業の概要	心理学の調査法のひとつとして質問紙調査がある。本講義では質問項目の作成から分析方法をカバーする。サンプルデータを用いた解析を各自で行う。 キーワード (SPSS 統計 卒論 分析)						
到達目標	卒論で使うであろう統計手法をSPSSで行えるようになる。 よく使う統計手法の意味と数値の読み取り方がわかるようになる。						
授業計画	1 心理学における調査とは1 2 心理学における調査とは2 3 質問紙の作成 4 データの種類：入力・反転処理・合成変数 5 単純集計 6 順位と複数回答の集計 7 クロス表の解析 8 二つの平均の差の検定 9 分散分析1 10 分散分析2 11 主成分分析 12 因子分析1 13 因子分析2 14 期末テスト 15 期末テスト解説						
授業外における学習（準備学習の内容）	パソコンの基本的な操作などは自分でわかっておくことが必要。 授業で習得した操作を自分ひとりでもできるように復習が必要。 必要であれば、統計に関する書籍やネットのサイトなどを補助的に利用すること。						
授業方法	実習方式 個別作業						
評価基準と評価方法	平常点（授業態度・課題への取り組み等）30%，試験70%						
教科書	適宜紹介						
参考書	適宜紹介						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	消費社会の心理学／消費社会の心理						
担当教員	前田 洋光						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	3～4	単位数	2.0
授業のテーマ	消費者理解のための心理学						
授業の概要	消費者行動とは、消費者が購買し、使用・維持を経て廃棄に至るすべての行動プロセスを含んだものであり、その行動は、消費者の個人内要因や環境からの外的要因など、多様な要因から影響を受けている。本講では、消費者の購買意思決定過程や情報処理、価格判断など、幅広くトピックを取り上げ、消費者を取り巻く問題を論考していく。受講者にとってきわめて身近なテーマであるため、日常生活と照らし合わせて考え、よりよい消費生活を考えるきっかけにしてほしい。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな消費行動を、客観的な視点から論考することができる。 ・消費の文脈から、人間理解を深めることができる ・消費者の特性を理解した上で、マーケティング戦略との対応を考えることができる。 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 消費者の情報探索 3. 多属性態度モデルと決定方略 4. 非合理的な意思決定(1) 5. 非合理的な意思決定(2) 6. 選択肢評価 7. 価格と購買意思決定(1) 心理的財布 8. 価格と購買意思決定(2) 非合理的な消費者の価格判断 9. 消費者満足 10. モノの意味：消費者の所有過程 11. 消費者のくちコミ行動(1) マスコミとくちコミの効果差異 12. 消費者のくちコミ行動(2) くちコミ効果を左右する要因 13. 消費者のくちコミ行動(3) 情報の送り手としてのくちコミ行動 14. 消費者の廃棄過程 15. まとめと確認テスト 						
授業外における学習(準備学習の内容)	参考図書を熟読すること。また、授業で学習した内容を、例えば実際に店舗内(売り場)を観察する等、マーケティング戦略との関連を検討してみてください。						
授業方法	講義形式でおこなう。講義毎に、当該授業のテーマに関する簡単な小レポートを実施する。						
評価基準と評価方法	小レポート(30%) テスト(70%)						
教科書							
参考書	杉本徹雄(編著)(2012)新・消費者理解のための心理学 福村出版						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学演習A						
担当教員	安達 圭一郎						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	論文作成法について教授するとともに、自らのテーマ決定、研究法選定、計画書作成を目的とする。						
授業の概要	基本的には、毎回複数名が、関心のある論文の要約を、資料とともにオーラルで報告する。その場合、受講生の関心の所在によって、指導内容も異なってくるが、基本的には受講生全員によるディスカッションを多く取り入れ、相互のテーマについて批評をおこなう。						
到達目標	最低でも、1人5本以上の論文（和、洋問わず）をまとめ、自己の研究テーマを明確にする。						
授業計画	第1回	オリエンテーション	概要説明と割り当て				
	第2回	文献検索①	関心のあるテーマに沿った文献の検索法について学ぶ①				
	第3回	文献検索①	関心のあるテーマに沿った文献の検索法について学ぶ②				
	第4回	研究論文の発表①	検索した論文をまとめて報告する①				
	第5回	研究論文の発表②	検索した論文をまとめて報告する②				
	第6回	研究論文の発表③	検索した論文をまとめて報告する③				
	第7回	研究論文の発表④	検索した論文をまとめて報告する④				
	第8回	研究論文の発表⑤	検索した論文をまとめて報告する⑤				
	第9回	研究論文の発表⑥	検索した論文をまとめて報告する⑥				
	第10回	研究論文の発表⑦	検索した論文をまとめて報告する⑦				
	第11回	研究論文の発表⑧	検索した論文をまとめて報告する⑧				
	第12回	研究論文の発表⑨	検索した論文をまとめて報告する⑨				
	第13回	研究論文の発表⑩	検索した論文をまとめて報告する⑩				
	第14回	先行研究のまとめ①	テーマを決定し、問題・目的を作成する①				
	第15回	先行研究のまとめ②	テーマを決定し、問題・目的を作成する②				
授業外における学習（準備学習の内容）	文献の検索法を習得した後は、関心のあるテーマに関する文献を徹底的に読み、まとめること。						
授業方法	ゼミナール形式						
評価基準と評価方法	受講態度50%、レポート50%						
教科書							
参考書	適宜紹介する。						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学演習A						
担当教員	大和田 攝子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	被害者支援や死生学に関連する文献を読み、理解を深める。						
授業の概要	被害者支援や死生学に関するテーマ、およびその関連領域についての文献を講読し、さまざまな問題や支援のあり方について学習する。毎回担当者を決め、指定された本の内容を紹介し、受講生全員で議論を深める。具体的には、以下のような内容を扱う予定である。 犯罪被害者の心理と支援、末期患者の心理、病名告知、ホスピス緩和ケア、自殺、生命倫理など。						
到達目標	被害者支援や死生学に関連する文献を読み、理解できるようになること。						
授業計画	第1回：オリエンテーション、発表割り当て 第2回：文献検索の方法を学ぶ 第3回：文献講読と討議 (1) 第4回：文献講読と討議 (2) 第5回：文献講読と討議 (3) 第6回：文献講読と討議 (4) 第7回：文献講読と討議 (5) 第8回：文献講読と討議 (6) 第9回：文献講読と討議 (7) 第10回：文献講読と討議 (8) 第11回：文献講読と討議 (9) 第12回：文献講読と討議 (10) 第13回：文献講読と討議 (11) 第14回：文献講読と討議 (12) 第15回：文献講読と討議 (13)						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業は受講生の発表が中心となるので、発表者は担当する文献を熟読し、レジュメを用意すること。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	発表内容や討論への参加（40%）、平常点（60%）などを総合的に評価する。						
教科書	授業中に紹介する。						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学演習A						
担当教員	久津木 文						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	発達心理学（乳幼児期・社会性・コミュニケーション発達）の演習。						
授業の概要	乳幼児期の社会性及びコミュニケーションの発達を中心とした分野の中で興味のもてそうな領域を探し、関連した研究論文を読めるようになることが第一の目的である。ただ論文を読むだけでなく、研究の結果や方法について疑問を持ち、議論できるようになってほしい。						
到達目標	次年度の卒業論文調査・実験につながるトピックや研究法についての理解を深める。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、自己紹介、発表割り当て 2. 個人発表とディスカッション1 3. 個人発表とディスカッション2 4. 個人発表とディスカッション3 5. 文献検索・収集1 6. 文献検索・収集2 7. 個人発表とディスカッション（文献）4 8. 個人発表とディスカッション（文献）5 9. 個人発表とディスカッション（文献）6 10. 興味テーマ発表とディスカッション1 11. 興味テーマの発表とディスカッション2 12. 興味テーマの発表とディスカッション3 13. 個人発表とディスカッション（研究計画） 14. 個人発表とディスカッション（研究計画） 15. 夏季休暇中の課題 						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業は学生の発表がメインである。毎回、または隔週で発表がまわってくるので、卒論につながる文献や調査を調べ理解しまとめる必要がある。						
授業方法	ゼミナール方式						
評価基準と評価方法	授業態度（20%）、課題への取り組み（80%）						
教科書	適宜紹介する						
参考書	適宜紹介する						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学演習A						
担当教員	黒崎 優美						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	卒業研究						
授業の概要	<p>目的： 次年度の卒業研究に向けて、研究テーマを設定し、研究論文の読み方・書き方を習得することを目的とします。</p> <p>概要： 対人関係に関わる問題を中心に、興味のあるテーマについて文献を調べ、まとめた内容を発表し、全体討議を行います。</p>						
到達目標	<p>設定した一つのテーマを深く探求し、その内容を伝えるという課題を通して、心理学的研究法やテーマに関する専門的知識を得ることを目標とします。さらに、パワーポイントを使った資料作成・プレゼンカ、ディスカッションにおける表現力の向上も目指します。</p>						
授業計画	<p>第1回 自己紹介、オリエンテーション</p> <p>第2回 対人関係への接近法(1) ～VAT(原子価査定テスト)の施行～</p> <p>第3回 対人関係への接近法(2) ～VATの採点～</p> <p>第4回 対人関係への接近法(3) ～VATの解釈～</p> <p>第5回 先行研究から学ぶ(1) ～グルーピング、先行研究(原子価に関するもの)選択～</p> <p>第6回 先行研究から学ぶ(2) ～発表用資料製作1～</p> <p>第7回 先行研究から学ぶ(3) ～発表用資料製作2～</p> <p>第8回 先行研究から学ぶ(4) ～発表と全体討議1～</p> <p>第9回 先行研究から学ぶ(5) ～発表と全体討議2～</p> <p>第10回 先行研究から学ぶ(6) ～再グルーピング、先行研究(精神分析・対象関係論領域)選択～</p> <p>第11回 先行研究から学ぶ(7) ～発表用資料製作1～</p> <p>第12回 先行研究から学ぶ(8) ～発表用資料製作2～</p> <p>第13回 先行研究から学ぶ(9) ～発表と全体討議1～</p> <p>第14回 先行研究から学ぶ(10) ～発表と全体討議2～</p> <p>第15回 研究テーマ決定、後期に向けての課題</p>						
授業外における学習(準備学習の内容)	ゼミ内での分担作業・発表準備などを行います。研究テーマに関する文献にもできるだけ多く触れてください。						
授業方法	ゼミ形式、および個別指導						
評価基準と評価方法	研究やゼミで行うその他の活動に対する参加・貢献度、成果物などを総合的に評価します。						
教科書	なし						
参考書	目に見えない人と人との繋がりをはかるー原子価査定テスト(VAT)の手引き、ハフシ・メッド著、ナカニシヤ出版、ISDN10:4779504899.						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学演習A						
担当教員	寺井 さち子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	子どもや思春期・青年期の臨床心理学的関心を高め、そうした分野の書籍。論文に馴染むこと。						
授業の概要	心理学の領域の、特に子どもや思春期青年期に関する考えを深めるため、学生自らが興味関心を抱く論文や本を読み進める。分担して発表の担当に当たった者は必ずレジメを提出しその内容を解説するものとする。そしてそうした領域に関する知見を皆で深め合うなかで、次第に4年生で作成する卒業研究への準備を整えていく機会とする。						
到達目標	学術論文を探せること。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「心理学演習A」の科目として持つ特徴など全般的なオリエンテーションを行う。 2. 各自が来年度に向けて準備を進めたい分野について話し合う。 3. 図書館の使い方、特に論文の検索方法などについて学ぶ。 4. 図書館に常設されている心理学関連の書籍に馴染む。 5. 心理学関連の学術雑誌に馴染む。 6. 学術雑誌から子どもに関する論文を選びだしまとめる練習を行う。 7. 学術雑誌から思春期に関する論文を選び出しまとめる練習を行う。 8. 学術雑誌から青年期に関する論文を選び出しまとめる練習を行う。 9. アタッチメント理論について学習を深め、関連する書物から発表を行う。 10. 最近のアタッチメント理論について学習を深めるため、関連する書物から発表を行う。 11. 発達障害（幼児期）について考えを深める。 12. 発達障害（児童期・思春期）について考えを深める。 13. いじめについて考えを深める。 14. 子どもの自殺について考えを深める。 15. 前期の学習について振り返る。 						
授業外における学習（準備学習の内容）	学術雑誌に目を通す習慣を身に着ける。						
授業方法	学生が主体的に研究を進めるゼミ形式をとる。教員は各学生の発表を支えて、より発展的にその内容を深められるよう						
評価基準と評価方法	<p>発表した内容、レジメのまとめかた、考えを深めようとする姿勢などから総合的に評価する。</p> <p>平常点を50%とし、欠席や発表回数が不足する場合は減点します。</p>						
教科書	なし						
参考書	なし						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学演習A						
担当教員	土肥 伊都子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	社会心理学の先行研究のレビュー						
授業の概要	社会心理学の研究分野の中から、学生自身が興味をもつテーマを選び、まとめ、発表する。以下にテーマの候補をあげる。自己・自己概念、対人認知、動機・感情、対人魅力、対人スキル、集団行動、リーダーシップ、社会的態度、ライフスタイル・価値観、精神的健康、職業意識、社会問題（ジェンダー、環境、福祉など）。						
到達目標	社会心理学の研究論文や著書を読み、理解できるようになること。						
授業計画	第1回 オリエンテーション、発表割当て 第2回 個人発表と討論1（研究テーマ案） 第3回 個人発表と討論2（研究テーマ案） 第4回 個人発表と討論3（研究テーマ案） 第5回 個人発表と討論4（研究テーマ案） 第6回 文献（研究論文・著書）の収集 第7回 文献（研究論文・著書）発表1 第8回 文献（研究論文・著書）発表2 第9回 文献（研究論文・著書）発表3 第10回 文献（研究論文・著書）発表4 第11回 文献（研究論文・著書）発表5 第12回 文献（研究論文・著書）発表6 第13回 文献（研究論文・著書）発表7 第14回 文献（研究論文・著書）発表8 第15回 夏季休暇中の課題について						
授業外における学習（準備学習の内容）	自分が関心をもつ社会問題についての情報を収集するために、日頃から新聞などに目を通す。						
授業方法	ゼミナール形式						
評価基準と評価方法	平常点100%						
教科書							
参考書							

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学演習A						
担当教員	中村 博文						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	事象の臨床心理学的理解						
授業の概要	受講生各自が興味をもつ臨床心理学のテーマについて、内外の文献を取り上げ、発表・討論を行う。その過程で、臨床心理学的観点に基づいた現象の理解、および研究の基本的な技法と態度を身につけることを目的とする。						
到達目標	様々な心まつわる現象を、臨床心理学的観点から理解することができるようになる。心理学研究の、基本的な技法と態度を身につけることができる。						
授業計画	#01：オリエンテーション-演習の進め方について #02：心理学論文の形式 #03：文献の種類 #04：文献検索の方法 #05：受講生による発表と討論-1周目の① #06：受講生による発表と討論-1周目の② #07：受講生による発表と討論-1周目の③ #08：受講生による発表と討論-1周目の④ #09：受講生による発表と討論-1周目の⑤ #10：受講生による発表と討論-2周目の① #11：受講生による発表と討論-2周目の② #12：受講生による発表と討論-2周目の③ #13：受講生による発表と討論-2周目の④ #14：受講生による発表と討論-2周目の⑤ #15：まとめ、文献リストの提出						
授業外における学習（準備学習の内容）	それぞれ関心がある領域についての文献を検索し、発表資料としてまとめること。						
授業方法	演習形式。 毎回、数名ずつ（受講人数によりその数は異なる）発表を行い、それに基づいて全員での討論を行う。発表・討論ともに、積極的に取り組むことを求める。						
評価基準と評価方法	発表（40%）、学期末提出の文献リスト（20%）、および討論への参加態度（40%）により評価を行う。						
教科書	指定しない。						
参考書	適時紹介する。						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学演習A						
担当教員	待田 昌二						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	心理学の専門的な知識の集め方とテーマの設定						
授業の概要	心理学の専門的な知識の集め方、研究方法について学ぶとともに、自身の研究テーマを見つけることを目的とした授業です。進化心理学、非言語コミュニケーションなどに関する本や論文を読み、専門的な本や研究論文における議論の進め方、データ収集と処理の方法、図表の示し方などを、論文を精読しながら具体的に学んでいきます。そして、心理学の本と研究論文から各自の関心に近いものを選び発表・議論します。また、パワーポイントによる発表の技術も習得します。						
到達目標	心理学の本と研究論文を目的に応じて探し、読みこなし、内容を他者に伝えることができるようになること。						
授業計画	第1回 授業の進め方と文献の紹介 第2回 心理学の本を読む1 第3回 心理学の本を読む2 第4回 心理学の本を読む3 第5回 パワーポイントによる発表方法の習得 第6回 受講生による本の紹介1 第7回 受講生による本の紹介2 第8回 受講生による本の紹介3 第9回 研究論文の読み方と紹介1 第10回 研究論文の読み方と紹介2 第12回 受講生による研究論文の紹介1 第13回 受講生による研究論文の紹介2 第14回 受講生による研究論文の紹介3 第15回 受講生による研究論文の紹介4						
授業外における学習（準備学習の内容）	本と論文を読み発表の準備をする。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	授業への取り組みなど平常点50%、発表50%						
教科書	使用しない						
参考書							

科目区分	心理学科専門教育科目																																																			
科目名	心理学演習B																																																			
担当教員	安達 圭一郎																																																			
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	3	単位数	2.0																																													
授業のテーマ	心理学演習Aに引き続き、卒業論文の作成に向けて取り組む。																																																			
授業の概要	各自が段階を追って、問題・目的、方法、結果の分析法を練り上げていく。毎回複数名の学生が、自己の研究テーマ、問題・目的などを報告し、相互で批評する。																																																			
到達目標	研究計画書の作成																																																			
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>第1回</td> <td>オリエンテーション</td> <td>概要説明と割り当て</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>先行研究のまとめ①</td> <td>テーマ、問題・目的などの発表①</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>先行研究のまとめ②</td> <td>テーマ、問題・目的などの発表②</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>先行研究のまとめ③</td> <td>テーマ、問題・目的などの発表③</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>先行研究のまとめ④</td> <td>テーマ、問題・目的などの発表④</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>先行研究のまとめ⑤</td> <td>テーマ、問題・目的などの発表⑤</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>先行研究のまとめ⑥</td> <td>テーマ、問題・目的などの発表⑥</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>先行研究のまとめ⑦</td> <td>テーマ、問題・目的などの発表⑦</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>先行研究のまとめ⑧</td> <td>テーマ、問題・目的などの発表⑧</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>先行研究のまとめ⑨</td> <td>テーマ、問題・目的などの発表⑨</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>先行研究のまとめ⑩</td> <td>テーマ、問題・目的などの発表⑩</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>計画書の作成①</td> <td>研究課題に合わせた研究法の決定①</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>計画書の作成②</td> <td>研究課題に合わせた研究法の決定②</td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>計画書の作成③</td> <td>研究計画書を完成する①</td> </tr> <tr> <td>第15回</td> <td>計画書の作成④</td> <td>研究計画書を完成する②</td> </tr> </table>							第1回	オリエンテーション	概要説明と割り当て	第2回	先行研究のまとめ①	テーマ、問題・目的などの発表①	第3回	先行研究のまとめ②	テーマ、問題・目的などの発表②	第4回	先行研究のまとめ③	テーマ、問題・目的などの発表③	第5回	先行研究のまとめ④	テーマ、問題・目的などの発表④	第6回	先行研究のまとめ⑤	テーマ、問題・目的などの発表⑤	第7回	先行研究のまとめ⑥	テーマ、問題・目的などの発表⑥	第8回	先行研究のまとめ⑦	テーマ、問題・目的などの発表⑦	第9回	先行研究のまとめ⑧	テーマ、問題・目的などの発表⑧	第10回	先行研究のまとめ⑨	テーマ、問題・目的などの発表⑨	第11回	先行研究のまとめ⑩	テーマ、問題・目的などの発表⑩	第12回	計画書の作成①	研究課題に合わせた研究法の決定①	第13回	計画書の作成②	研究課題に合わせた研究法の決定②	第14回	計画書の作成③	研究計画書を完成する①	第15回	計画書の作成④	研究計画書を完成する②
第1回	オリエンテーション	概要説明と割り当て																																																		
第2回	先行研究のまとめ①	テーマ、問題・目的などの発表①																																																		
第3回	先行研究のまとめ②	テーマ、問題・目的などの発表②																																																		
第4回	先行研究のまとめ③	テーマ、問題・目的などの発表③																																																		
第5回	先行研究のまとめ④	テーマ、問題・目的などの発表④																																																		
第6回	先行研究のまとめ⑤	テーマ、問題・目的などの発表⑤																																																		
第7回	先行研究のまとめ⑥	テーマ、問題・目的などの発表⑥																																																		
第8回	先行研究のまとめ⑦	テーマ、問題・目的などの発表⑦																																																		
第9回	先行研究のまとめ⑧	テーマ、問題・目的などの発表⑧																																																		
第10回	先行研究のまとめ⑨	テーマ、問題・目的などの発表⑨																																																		
第11回	先行研究のまとめ⑩	テーマ、問題・目的などの発表⑩																																																		
第12回	計画書の作成①	研究課題に合わせた研究法の決定①																																																		
第13回	計画書の作成②	研究課題に合わせた研究法の決定②																																																		
第14回	計画書の作成③	研究計画書を完成する①																																																		
第15回	計画書の作成④	研究計画書を完成する②																																																		
授業外における学習（準備学習の内容）	自己のテーマに関連する文献（書籍・論文など）を熟読し、整理して理解しておくこと。																																																			
授業方法	ゼミナール形式																																																			
評価基準と評価方法	受講態度50%、レポート50%																																																			
教科書																																																				
参考書	適宜紹介する																																																			

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学演習B						
担当教員	大和田 攝子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	卒業論文のテーマの決定と研究計画の立案						
授業の概要	各自の関心のあるテーマについての文献を講読し、研究の方法や結果の分析について学習する。毎回担当者を決め、各自で選んだ論文の内容を紹介し、受講生全員で議論を深める。最終的には、各自の興味に沿って卒業研究のテーマを絞り込むことを目的とする。						
到達目標	卒業論文のテーマを決め、研究計画を立てること。						
授業計画	第1回：文献研究に関する発表と討議 (1) 第2回：文献研究に関する発表と討議 (2) 第3回：文献研究に関する発表と討議 (3) 第4回：文献研究に関する発表と討議 (4) 第5回：文献研究に関する発表と討議 (5) 第6回：文献研究に関する発表と討議 (6) 第7回：文献研究に関する発表と討議 (7) 第8回：文献研究に関する発表と討議 (8) 第9回：文献研究に関する発表と討議 (9) 第10回：文献研究に関する発表と討議 (10) 第11回：文献研究に関する発表と討議 (11) 第12回：文献研究に関する発表と討議 (12) 第13回：研究計画に関する発表と討議 (1) 第14回：研究計画に関する発表と討議 (2) 第15回：研究計画に関する発表と討議 (3)						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業は受講生の発表が中心となるので、発表者は担当する文献を熟読し、レジュメを用意すること。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	発表内容や討論への参加（40%）、平常点（60%）などを総合的に評価する。						
教科書							
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学演習B						
担当教員	久津木 文						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	発達心理学の演習。						
授業の概要	心理学演習A（前期）から引き続き、個別のテーマに沿って文献を読み、討議を重ね、考察を深めるのが目的である。						
到達目標	卒論につながるテーマ及び研究法を調べる。 具体的な調査方法を検討し、次年度すぐ調査・実験が開始できるようになる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 夏休み中の課題の提出及びテーマの修正など 2. 個人発表とディスカッション1 3. 個人発表とディスカッション2 4. 個人発表とディスカッション3 5. 文献検索・収集1 6. 文献検索・収集2 7. 個人発表とディスカッション（文献）4 8. 個人発表とディスカッション（文献）5 9. 個人発表とディスカッション（文献）6 10. 興味のテーマ発表とディスカッション1 11. 興味のテーマの発表とディスカッション2 12. 興味のテーマの発表とディスカッション3 13. 個人発表とディスカッション（研究計画） 14. 個人発表とディスカッション（研究計画） 15. 個人発表とディスカッション（研究計画） 						
授業外における学習（準備学習の内容）	次年度行う調査・実験につながるよう時間外も個人で文献調査などを進めておく必要あり。						
授業方法	ゼミナール方式						
評価基準と評価方法	授業態度（20%）、課題への取り組み（80%）						
教科書	プリントを配布する						
参考書	プリントを配布する						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学演習B						
担当教員	黒崎 優美						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	卒業研究						
授業の概要	<p>目的： 心理学演習Aに引き続き、次年度の卒業研究に向けて、研究テーマを確定し、具体的な研究計画を作成することを目的とします。</p> <p>概要： 対人関係に関わる問題を中心に、興味のあるテーマについて文献を調べ、まとめた内容を発表し、全体でディスカッションを行います。</p>						
到達目標	<p>設定した一つのテーマを深く探求し、その内容を伝えるという課題を通して、心理学的研究法やテーマに関する専門的知識を得ることを目標とします。さらに、パワーポイントを使った資料作成・プレゼン力、ディスカッションにおける表現力の向上も目指します。</p>						
授業計画	<p>第1回 今後の研究の進め方について</p> <p>第2回 問題と仮説(1) ～研究テーマ近接領域の文献研究～</p> <p>第3回 問題と仮説(2) ～既存尺度の比較検討～</p> <p>第4回 問題と仮説(3) ～質問紙作成～</p> <p>第5回 問題と仮説(4) ～発表用資料製作1～</p> <p>第6回 問題と仮説(5) ～発表用資料製作2～</p> <p>第7回 問題と仮説(6) ～発表と全体討議1～</p> <p>第8回 問題と仮説(7) ～発表と全体討議2～</p> <p>第9回 調査準備(1) ～質問紙の修正～</p> <p>第10回 調査準備(2) ～質問紙の仕上げ～</p> <p>第11回 データ処理法について</p> <p>第12回 データ入力(1)</p> <p>第13回 データ入力(2)</p> <p>第14回 データ入力(3)</p> <p>第15回 まとめと来年度に向けての課題</p> <p>注) 学外での研究活動を含む</p>						
授業外における学習(準備学習の内容)	ゼミ内での分担作業・発表準備などを行います。研究テーマに関する文献にもできるだけ多く触れてください。						
授業方法	ゼミ形式、および個別指導						
評価基準と評価方法	研究やゼミで行うその他の活動に対する参加・貢献度、成果物などを総合的に評価します。						
教科書	なし						
参考書	適宜紹介します。						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学演習B						
担当教員	寺井 さち子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	前期で身につけた学習力をさらに培い、次年度の卒業研究作成の基礎能力を養いつつ、次第に自分の卒論作成の流れへと進む。						
授業の概要	乳児期から思春期の子どもについての心理学的理解を深めながら、個人個人の卒論テーマをより明確にし、具体的な準備を始める。すなわち、先行研究を見つけ、それを図書館で入手し、読み込むなどの作業である。						
到達目標	興味を抱く学術論文を探し読みこなせるようになること。						
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> 15. 情緒障害について学習・発表。 16. 現代の子どもの状況①（乳児期）について学習・発表。 17. 現代の子どもの状況②（幼児期）について学習・発表。 18. 現代の子どもの状況③（学童期）について学習・発表。 19. 現代の思春期・青年期の状況①について学習・発表。 20. 現代の思春期・青年期の状況②について学習・発表。 21. 卒論取組みの準備。①テーマ探し。 22. 卒論取組みの準備。②テーマについて討議。 23. 卒論取組みの準備。③テーマについて発表。 24. 卒論テーマに添って学習を深める。 25. 卒論テーマに添って学習を深める。 26. 卒論テーマに添って深めた学習を順次発表。 27. 卒論テーマに添って深めた学習を順次発表。 28. 次年度に向けて計画書を試案。 29. 次年度に向けて研究計画を発表。 30. 卒論研究計画書の作成・提出。 						
授業外における学習（準備学習の内容）	日頃から図書館に通い、学術論文雑誌に目を通すこと。						
授業方法	学生が自発的に文献を選びレジメに纏めてきたものを発表する演習の形式を中心とするので、受け身的な参加では成績に結びつかないと考えるくらいの自覚が必要。						
評価基準と評価方法	平常点を50%とし、欠席あるいは発表回数の不足がある場合は減点する。						
教科書	特定の教科書は使用しない。						
参考書	必要に応じて授業中に紹介はするが、学生各自が積極的に興味ある書籍を見つけて学習することが前提となる。						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学演習B						
担当教員	土肥 伊都子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	社会心理学研究の習得と、自らの研究計画の作成						
授業の概要	自分の関心のあるテーマに関する社会心理学の最近の研究を、雑誌論文（「心理学研究」、「社会心理学研究」、「実験社会心理学研究」など）の中から選び、まとめ、発表する。 卒業論文のテーマを具体化していく。						
到達目標	卒業論文の研究計画を立てること。						
授業計画	第1回 個人発表と討論（夏季休暇中の課題の提出） 第2回 文献（先行研究論文）収集 第3回 個人発表と討論1（研究計画案） 第4回 個人発表と討論2（研究計画案） 第5回 個人発表と討論3（研究計画案） 第6回 個人発表と討論4（研究計画案） 第7回 個人発表と討論5（雑誌論文のまとめと、仮説作成） 第8回 個人発表と討論6（雑誌論文のまとめと、仮説作成） 第9回 個人発表と討論7（雑誌論文のまとめと、仮説作成） 第10回 個人発表と討論8（雑誌論文のまとめと、仮説作成） 第11回 個人発表と討論9（雑誌論文のまとめと、仮説作成） 第12回 個人発表と討論10（雑誌論文のまとめと、仮説作成） 第13回 個人発表と討論11（雑誌論文のまとめと、仮説作成） 第14回 研究計画書の作成1 第15回 研究計画書の作成2						
授業外における学習（準備学習の内容）	自分の研究計画に関連した情報を幅広く収集するために、日頃から新聞などに目を通す。						
授業方法	ゼミナール形式						
評価基準と評価方法	平常点100%						
教科書							
参考書							

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学演習B						
担当教員	中村 博文						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	卒業研究のテーマ決定						
授業の概要	心理学演習Aに引き続き、受講生各自が興味をもつ臨床心理学のテーマについて、内外の文献を取り上げ、発表・討論を行うことで、テーマについての理解をさらに深める。 その上で、最終的に卒業論文のテーマを決定し、研究計画を立案することを目的とする。						
到達目標	卒業研究のテーマ決定と、研究計画の作成。						
授業計画	#01：演習の進め方についてのオリエンテーション #02：受講生による発表と討論-1周目の① #03：受講生による発表と討論-1周目の② #04：受講生による発表と討論-1周目の③ #05：1周目の発表についての全体講評とディスカッション #06：受講生による発表と討論-2周目の① #07：受講生による発表と討論-2周目の② #08：受講生による発表と討論-2周目の③ #09：2周目の発表についての全体講評とディスカッション #10：受講生による発表と討論-3周目の① #11：受講生による発表と討論-3周目の② #12：受講生による発表と討論-3周目の③ #13：3周目の発表についての全体講評とディスカッション #14：卒業研究計画書と文献リストの提出① #15：卒業研究計画書と文献リストの提出②						
授業外における学習（準備学習の内容）	それぞれ関心がある領域についての文献を検索し、発表資料としてまとめること。						
授業方法	演習形式。 毎回、数名ずつ（受講人数によりその数は異なる）発表を行い、それに基づいて全員での討論を行う。発表・討論ともに、積極的に取り組むことを求める。						
評価基準と評価方法	発表（40%）、学期末提出の研究計画と文献リスト（20%）、および討論への参加態度（40%）により評価を行う。						
教科書	指定しない。						
参考書	適時紹介する。						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学演習B						
担当教員	待田 昌二						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	心理学の研究手法と分析方法の習得						
授業の概要	心理学演習Aに引き続き、心理学の専門的な知識の集め方、研究方法について学ぶとともに、自身の研究テーマを見つけることを目的とした授業です。各受講生が自身の研究テーマを決定し、研究方法を考え、授業で発表して議論していく中で、研究テーマと方法を明確にしていき、予備調査を行ってデータを集めます。そして、データの分析方法、結果の示し方を習得して、調査結果を発表するという経験を体験します。						
到達目標	テーマを設定し、研究方法と分析方法を考えてレポートにまとめる。						
授業計画	第1回 研究テーマについて考える 第2回 研究の目的・仮説の文章化 第3回 研究テーマの発表 第4回 研究方法について考える 第5回 研究方法の立案 第6回 研究方法の文章化 第7回 データの収集 第8回 データの入力 第9回 データの集計 第10回 データの分析 第11回 結果の図や表での表示 第12回 結果の書き方 第13回 結果の発表 第14回 考察の書き方 第15回 レポートにまとめる						
授業外における学習（準備学習の内容）	研究方法を考え、データ収集し、Excelを用いた分析を行う。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	授業中での発表など平常点60%と期末レポート40%						
教科書	使用しない						
参考書							

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学概論						
担当教員	土肥 伊都子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	心理学という学問の概要, 方法について学ぶ						
授業の概要	心理学の幅広い分野を, 教科書の内容にそって学習する。これにより, 心理学という学問は, 心のはたらきを「行動」として捉え, その法則を科学的に定立するものであることが理解できる。また, 授業時間の一部を使ってできる, 簡単な実験や質問紙調査を行い, 自己分析も行う。						
到達目標	現代心理学の全体像を知ること。 心理学における実証的アプローチを理解すること。						
授業計画	第1回 科学としての心理学 第2回 知覚 第3回 学習 第4回 記憶 第5回 認知とスキーマ 第6回 思考 第7回 パーソナリティ (1) 第8回 パーソナリティ (2) 第9回 発達 (1) 第10回 発達 (2) 第11回 知能 第12回 対人魅力 第13回 心の健康, ストレス 第14回 集団行動 第15回 まとめと試験						
授業外における学習 (準備学習の内容)	授業の該当部分の教科書を, 予習・復習として読む。 授業で使用したスライドを各自で印刷して, 復習する。						
授業方法	講義形式						
評価基準と評価方法	平常点30%, 定期試験70%						
教科書	「現代心理学への招待」 塚本伸一・堀 耕治 (編著) (樹村房)						
参考書							

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学基礎実習A						
担当教員	久津木・日置・斎藤・堀						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜3~4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	心理学の基礎を実験で体験する						
授業の概要	基礎心理学分野を中心に心理学の研究方法の基礎について学ぶ。具体的には、少人数クラス編成において、感覚・知覚、記憶、社会的影響など各分野の小実験を実験者または被験者として参加しながら体験し、実験的技法や実証的技法を体得することを目的としている。						
到達目標	実施した実験についてのレポートの作成を通じて、問題の設定、研究方法の選択、実験データの分析とグラフ化、考察の仕方を習得する。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーションと実験 2 実験の解説とレポートの作成 3 触二点閾の測定 4 触二点閾の測定のレポート作成 5 記憶の系列位置効果 6 記憶の系列位置効果：データの分析・レポート 7 アンケート調査・質問紙実験の計画・実施 8 アンケート調査・質問紙データの分析・レポート 9 ストループ 10 ストループ：データの分析・レポート 11 自由実験：立案・計画 12 自由実験：実施 13 自由実験：データの分析・レポート作成 14 自由実験：レポート作成・発表 15 講評 						
授業外における学習（準備学習の内容）	自由実験はこれまで行った実験をもとに新たに実験を計画するものであるので、授業で行った実験について考え、調べたいことを考えておくこと。						
授業方法	実習						
評価基準と評価方法	授業への取り組み50%&レポート課題の評価50%						
教科書							
参考書							

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学基礎実習A						
担当教員	久津木・日置・斎藤・堀						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜3~4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	心理学の基礎を実験で体験する						
授業の概要	基礎心理学分野を中心に心理学の研究方法の基礎について学ぶ。具体的には、少人数クラス編成において、感覚・知覚、記憶、社会的影響など各分野の小実験を実験者または被験者として参加しながら体験し、実験的技法や実証的技法を体得することを目的としている。						
到達目標	実施した実験についてのレポートの作成を通じて、問題の設定、研究方法の選択、実験データの分析とグラフ化、考察の仕方を習得する。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーションと実験 2 実験の解説とレポートの作成 3 触二点閾の測定 4 触二点閾の測定のレポート作成 5 記憶の系列位置効果 6 記憶の系列位置効果：データの分析・レポート 7 アンケート調査・質問紙実験の計画・実施 8 アンケート調査・質問紙データの分析・レポート 9 ストループ 10 ストループ：データの分析・レポート 11 自由実験：立案・計画 12 自由実験：実施 13 自由実験：データの分析・レポート作成 14 自由実験：レポート作成・発表 15 講評 						
授業外における学習（準備学習の内容）	自由実験はこれまで行った実験をもとに新たに実験を計画するものであるので、授業で行った実験について考え、調べたいことを考えておくこと。						
授業方法	実習						
評価基準と評価方法	授業への取り組み50%&レポート課題の評価50%						
教科書							
参考書							

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学基礎実習A						
担当教員	久津木・日置・斎藤・堀						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜3~4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	心理学の基礎を実験で体験する						
授業の概要	基礎心理学分野を中心に心理学の研究方法の基礎について学ぶ。具体的には、少人数クラス編成において、感覚・知覚、記憶、社会的影響など各分野の小実験を実験者または被験者として参加しながら体験し、実験的技法や実証的技法を体得することを目的としている。						
到達目標	実施した実験についてのレポートの作成を通じて、問題の設定、研究方法の選択、実験データの分析とグラフ化、考察の仕方を習得する。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーションと実験 2 実験の解説とレポートの作成 3 触二点閾の測定 4 触二点閾の測定のレポート作成 5 記憶の系列位置効果 6 記憶の系列位置効果：データの分析・レポート 7 アンケート調査・質問紙実験の計画・実施 8 アンケート調査・質問紙データの分析・レポート 9 ストループ 10 ストループ：データの分析・レポート 11 自由実験：立案・計画 12 自由実験：実施 13 自由実験：データの分析・レポート作成 14 自由実験：レポート作成・発表 15 講評 						
授業外における学習（準備学習の内容）	自由実験はこれまで行った実験をもとに新たに実験を計画するものであるため、授業で行った実験について考え、調べたいことを考えておくこと。						
授業方法	実習						
評価基準と評価方法	授業への取り組み50%&レポート課題の評価50%						
教科書							
参考書							

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学基礎実習A						
担当教員	久津木・日置・斎藤・堀						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜3~4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	心理学の基礎を実験で体験する						
授業の概要	基礎心理学分野を中心に心理学の研究方法の基礎について学ぶ。具体的には、少人数クラス編成において、感覚・知覚、記憶、社会的影響など各分野の小実験を実験者または被験者として参加しながら体験し、実験的技法や実証的技法を体得することを目的としている。						
到達目標	実施した実験についてのレポートの作成を通じて、問題の設定、研究方法の選択、実験データの分析とグラフ化、考察の仕方を習得する。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーションと実験 2 実験の解説とレポートの作成 3 触二点閾の測定 4 触二点閾の測定のレポート作成 5 記憶の系列位置効果 6 記憶の系列位置効果：データの分析・レポート 7 アンケート調査・質問紙実験の計画・実施 8 アンケート調査・質問紙データの分析・レポート 9 ストループ 10 ストループ：データの分析・レポート 11 自由実験：立案・計画 12 自由実験：実施 13 自由実験：データの分析・レポート作成 14 自由実験：レポート作成・発表 15 講評 						
授業外における学習（準備学習の内容）	自由実験はこれまで行った実験をもとに新たに実験を計画するものであるので、授業で行った実験について考え、調べたいことを考えておくこと。						
授業方法	実習						
評価基準と評価方法	授業への取り組み50%&レポート課題の評価50%						
教科書							
参考書							

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学基礎実習B						
担当教員	久津木・日置・斎藤・堀						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜3~4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	心理学の基礎を実験で体験する						
授業の概要	基礎心理学分野を中心に心理学の研究方法の基礎について学ぶ。具体的には、少人数クラス編成において、感覚・知覚、記憶、社会的影響など各分野の小実験を実験者または被験者として参加しながら体験し、実験的技法や実証的技法を体得することを目的としている。						
到達目標	実施した実験についてのレポートの作成を通じて、問題の設定、研究方法の選択、実験データの分析とグラフ化、考察の仕方を習得する。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 両側性転移の実験実施&レポート作成 2 係留効果の実験実施 3 係留効果のレポート作成 4 要求水準 5 ミューラーリアー錯視 6 ミューラーリアー錯視のレポート 7 反応時間測定 8 Implicit Association test(反応時間を用いた印象評価) 1 9 Implicit Association test(反応時間を用いた印象評価) 2 10 同調行動実験&レポート 11 パーソナルスペース 12 パーソナルスペース実験&レポート 13 自由実験：立案・計画 14 自由実験：実施・分析 15 自由実験：レポート作成 						
授業外における学習(準備学習の内容)	自由実験はこれまで行った実験をもとに新たに実験を計画するものであるので、授業で行った実験について考え、調べたいことを考えておくこと。						
授業方法	実習						
評価基準と評価方法	授業への取り組み50%&レポート課題の評価50%						
教科書							
参考書							

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学基礎実習B						
担当教員	久津木・日置・斎藤・堀						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜3~4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	心理学の基礎を実験で体験する						
授業の概要	基礎心理学分野を中心に心理学の研究方法の基礎について学ぶ。具体的には、少人数クラス編成において、感覚・知覚、記憶、社会的影響など各分野の小実験を実験者または被験者として参加しながら体験し、実験的技法や実証的技法を体得することを目的としている。						
到達目標	実施した実験についてのレポートの作成を通じて、問題の設定、研究方法の選択、実験データの分析とグラフ化、考察の仕方を習得する。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 両側性転移の実験実施&レポート作成 2 係留効果の実験実施 3 係留効果のレポート作成 4 要求水準 5 ミューラーリアー錯視 6 ミューラーリアー錯視のレポート 7 反応時間測定 8 Implicit Association test(反応時間を用いた印象評価) 1 9 Implicit Association test(反応時間を用いた印象評価) 2 10 同調行動実験&レポート 11 パーソナルスペース 12 パーソナルスペース実験&レポート 13 自由実験：立案・計画 14 自由実験：実施・分析 15 自由実験：レポート作成 						
授業外における学習(準備学習の内容)	自由実験はこれまで行った実験をもとに新たに実験を計画するものであるので、授業で行った実験について考え、調べたいことを考えておくこと。						
授業方法	実習						
評価基準と評価方法	授業への取り組み50%&レポート課題の評価50%						
教科書							
参考書							

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学基礎実習B						
担当教員	久津木・日置・斎藤・堀						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜3~4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	心理学の基礎を実験で体験する						
授業の概要	基礎心理学分野を中心に心理学の研究方法の基礎について学ぶ。具体的には、少人数クラス編成において、感覚・知覚、記憶、社会的影響など各分野の小実験を実験者または被験者として参加しながら体験し、実験的技法や実証的技法を体得することを目的としている。						
到達目標	実施した実験についてのレポートの作成を通じて、問題の設定、研究方法の選択、実験データの分析とグラフ化、考察の仕方を習得する。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 両側性転移の実験実施&レポート作成 2 係留効果の実験実施 3 係留効果のレポート作成 4 要求水準 5 ミューラーリアー錯視 6 ミューラーリアー錯視のレポート 7 反応時間測定 8 Implicit Association test(反応時間を用いた印象評価) 1 9 Implicit Association test(反応時間を用いた印象評価) 2 10 同調行動実験&レポート 11 パーソナルスペース 12 パーソナルスペース実験&レポート 13 自由実験：立案・計画 14 自由実験：実施・分析 15 自由実験：レポート作成 						
授業外における学習(準備学習の内容)	自由実験はこれまで行った実験をもとに新たに実験を計画するものであるので、授業で行った実験について考え、調べたいことを考えておくこと。						
授業方法	実習						
評価基準と評価方法	授業への取り組み50%&レポート課題の評価50%						
教科書							
参考書							

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学基礎実習B						
担当教員	久津木・日置・斎藤・堀						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜3~4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	心理学の基礎を実験で体験する						
授業の概要	基礎心理学分野を中心に心理学の研究方法の基礎について学ぶ。具体的には、少人数クラス編成において、感覚・知覚、記憶、社会的影響など各分野の小実験を実験者または被験者として参加しながら体験し、実験的技法や実証的技法を体得することを目的としている。						
到達目標	実施した実験についてのレポートの作成を通じて、問題の設定、研究方法の選択、実験データの分析とグラフ化、考察の仕方を習得する。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 両側性転移の実験実施&レポート作成 2 係留効果の実験実施 3 係留効果のレポート作成 4 要求水準 5 ミューラーリアー錯視 6 ミューラーリアー錯視のレポート 7 反応時間測定 8 Implicit Association test(反応時間を用いた印象評価) 1 9 Implicit Association test(反応時間を用いた印象評価) 2 10 同調行動実験&レポート 11 パーソナルスペース 12 パーソナルスペース実験&レポート 13 自由実験：立案・計画 14 自由実験：実施・分析 15 自由実験：レポート作成 						
授業外における学習(準備学習の内容)	自由実験はこれまで行った実験をもとに新たに実験を計画するものであるので、授業で行った実験について考え、調べたいことを考えておくこと。						
授業方法	実習						
評価基準と評価方法	授業への取り組み50%&レポート課題の評価50%						
教科書							
参考書							

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学上級演習Ⅰ／心理学特別演習Ⅰ						
担当教員	待田 昌二						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	基礎系心理学の諸概念や用語の正確な理解						
授業の概要	大学院進学など心理学のより高い専門性を旨とする学生を対象とした授業。心理系大学院の過去問を題材として、基礎系の心理学の諸概念や用語の正確な理解を目指すことを主な目的としている。加えて、基礎系の心理学の外国語過去問を題材として、心理学の専門書・論文を読みこなす上で必要な英語読解力の向上も行う。						
到達目標	基礎系心理学の知識に関して、心理系大学院受験に必要なレベルに到達すること						
授業計画	第1回 心理学の歴史 第2回 感覚知覚 第3回 脳神経 第4回 神経記憶 第5回 学習 第6回 学習と認知 第7回 動機づけと情動 第8回 初期発達 第9回 知能教育 第10回 生涯発達 第11回 社会的認知 第12回 社会と人間 第13回 コミュニケーション 第14回 統計基礎 第15回 統計応用						
授業外における学習（準備学習の内容）	毎回予習課題を出し、課題について調べたレポートの提出を求める						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	期末試験が60%、通常授業時の課題提出・小テストなど平常点40%						
教科書	使用しない						
参考書	授業中に指示する						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学上級演習II／心理学特別演習II						
担当教員	黒崎 優美						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜5	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	大学院進学対策						
授業の概要	目的： 大学院進学や専門職を目指すための、より専門性の高い心理学的知識の習得を目的とします。 概要： 過去の入試問題（特に臨床心理学領域）を主な教材とし、単に問題を解くだけでなく、応用力まで身につけることを目指します。						
到達目標	臨床心理学系大学院入試に必要な専門知識を幅広く習得することにより、今後の臨床や研究の方向性についても見定め明確にすることを目標とします。						
授業計画	第1回 心理系大学院入試の動向と対策 第2回 人格論 第3回 発達論と発達障害(1) 第4回 発達論と発達障害(2) 第5回 発達論と発達障害(2) 第6回 精神病理(1) 第7回 精神病理(2) 第8回 精神病理(3) 第9回 心理査定(1) 第10回 心理査定(2) 第11回 心理査定(3) 第12回 心理療法(1) 第13回 心理療法(2) 第14回 心理療法(3) 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	大学院入試に頻出のテーマから課題を出します。						
授業方法	演習形式						
評価基準と評価方法	平常点50%、課題・提出物50%						
教科書	なし。プリントを配布します。						
参考書	適宜紹介します。						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理テストA／心理検査法I						
担当教員	大和田 攝子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	知能検査と性格検査（質問紙法・作業検査法）について学ぶ。						
授業の概要	心理アセスメントをする際によく用いられる検査として、知能・発達検査や性格検査がある。本講義では主に知能検査と性格検査（質問紙法・作業検査法）を取り上げ、その理論的背景、実施法、結果の解釈について講義と実習を中心に授業を進める。						
到達目標	各検査について、実施法や結果の解釈について理解できるようになること。						
授業計画	第1回：概論（1）－心理アセスメントとは何か－ 第2回：概論（2）－心理検査の種類と特色－ 第3回：田中ビネー式知能検査（1）解説・実施法 第4回：田中ビネー式知能検査（2）実施法 第5回：田中ビネー式知能検査（3）実施法 第6回：田中ビネー式知能検査（4）結果の処理 第7回：ウェクスラー式知能検査（1）解説・実施法 第8回：ウェクスラー式知能検査（2）実施法 第9回：ウェクスラー式知能検査（3）実施法 第10回：ウェクスラー式知能検査（4）結果の処理 第11回：Y-G性格検査 第12回：MMPI（1）解説・実施法 第13回：MMPI（2）結果の処理 第14回：内田クレペリン精神作業検査 第15回：SDS職業適性診断テスト						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業時間内に検査の実施や結果の処理が終わらないこともあるので、次の授業までに作業を終わらせておくこと。						
授業方法	講義と実習						
評価基準と評価方法	レポート（40%）と平常点（60%）を総合的に評価する。						
教科書	プリントを配布する。						
参考書	松原達哉（編著）『心理テスト法入門 第4版』（日本文化科学社）ISBN4-8210-6360-3						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理テストA／心理検査法I						
担当教員	大和田 攝子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	知能検査と性格検査（質問紙法・作業検査法）について学ぶ。						
授業の概要	心理アセスメントをする際によく用いられる検査として、知能・発達検査や性格検査がある。本講義では主に知能検査と性格検査（質問紙法・作業検査法）を取り上げ、その理論的背景、実施法、結果の解釈について講義と実習を中心に授業を進める。						
到達目標	各検査について、実施法や結果の解釈について理解できるようになること。						
授業計画	第1回：概論（1）－心理アセスメントとは何か－ 第2回：概論（2）－心理検査の種類と特色－ 第3回：田中ビネー式知能検査（1）解説・実施法 第4回：田中ビネー式知能検査（2）実施法 第5回：田中ビネー式知能検査（3）実施法 第6回：田中ビネー式知能検査（4）結果の処理 第7回：ウェクスラー式知能検査（1）解説・実施法 第8回：ウェクスラー式知能検査（2）実施法 第9回：ウェクスラー式知能検査（3）実施法 第10回：ウェクスラー式知能検査（4）結果の処理 第11回：Y-G性格検査 第12回：MMPI（1）解説・実施法 第13回：MMPI（2）結果の処理 第14回：内田クレペリン精神作業検査 第15回：SDS職業適性診断テスト						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業時間内に検査の実施や結果の処理が終わらないこともあるので、次の授業までに作業を終わらせておくこと。						
授業方法	講義と実習						
評価基準と評価方法	レポート（40%）と平常点（60%）を総合的に評価する。						
教科書	プリントを配布する。						
参考書	松原達哉（編著）『心理テスト法入門 第4版』（日本文化科学社）ISBN4-8210-6360-3						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理テストB／心理検査法II						
担当教員	中村 博文						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	投映法の学習						
授業の概要	「投映法」といわれる一連の心理検査法について学習する。 具体的には、描画法、文章完成法（SCT）、PFスタディ、ロールシャッハ・テスト、TAT（主題統覚検査）などについて、それらの特徴、実施法、整理法、解釈法といったことを、体験を通じて学ぶ。						
到達目標	様々な投映法心理検査について、被検者体験をすることができる。また、それぞれの検査について、整理法、解釈法などを知ることができる。						
授業計画	<p>#01：オリエンテーションー投映法とは？ #02：描画法①ーバウム・テスト #03：描画法②ー人物画テスト #04：描画法③ーS-HTP #05：描画法④ー風景構成法 #06：SCT①ー理論と施行法 #07：SCT②ー結果の整理と解釈 #08：PFスタディ①ー理論と施行法 #09：PFスタディ②ー結果の整理(1) #10：PFスタディ③ー結果の整理(2) #11：PFスタディ④ー結果の整理(3) #12：PFスタディ⑤ー結果の解釈 #13：ロールシャッハ・テスト #14：TAT（主題統覚検査） #15：まとめ、レポート提出</p> <p>※授業進度によっては、検査種が増減する可能性がある。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業時間だけでは検査の実施、および整理が終わらない場合もある。指示にしたがって、次の授業までに課題を終えておくこと。 授業各回で扱う投映法心理検査について、配付資料に記載されている参考文献を読み、理解を深めることを求める。						
授業方法	講義（実習的内容を含む）。 投映法心理検査を体験し、それを整理、解釈する。 毎回授業の最後に、小レポート（問いに対する回答、質問、感想）の提出を求める。						
評価基準と評価方法	平常点（30%）、小レポート（30%）、および検査実習レポート（40%）により評価する。						
教科書	必要に応じて、プリントを配布する。						
参考書	適時紹介する。						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理テストB／心理検査法II						
担当教員	中村 博文						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	投映法の学習						
授業の概要	「投映法」といわれる一連の心理検査法について学習する。 具体的には、描画法、文章完成法（SCT）、PFスタディ、ロールシャッハ・テスト、TAT（主題統覚検査）などについて、それらの特徴、実施法、整理法、解釈法といったことを、体験を通じて学ぶ。						
到達目標	様々な投映法心理検査について、被検者体験をすることができる。また、それぞれの検査について、整理法、解釈法などを知ることができる。						
授業計画	#01：オリエンテーションー投映法とは？ #02：描画法①ーバウム・テスト #03：描画法②ー人物画テスト #04：描画法③ーS-HTP #05：描画法④ー風景構成法 #06：SCT①ー理論と施行法 #07：SCT②ー結果の整理と解釈 #08：PFスタディ①ー理論と施行法 #09：PFスタディ②ー結果の整理(1) #10：PFスタディ③ー結果の整理(2) #11：PFスタディ④ー結果の整理(3) #12：PFスタディ⑤ー結果の解釈 #13：ロールシャッハ・テスト #14：TAT（主題統覚検査） #15：まとめ、レポート提出 ※授業進度によっては、検査種が増減する可能性がある。						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業時間だけでは検査の実施、および整理が終わらない場合もある。指示にしたがって、次の授業までに課題を終えておくこと。 授業各回で扱う投映法心理検査について、配付資料に記載されている参考文献を読み、理解を深めることを求める。						
授業方法	講義（実習的内容を含む）。 投映法心理検査を体験し、それを整理、解釈する。 毎回授業の最後に、小レポート（問いに対する回答、質問、感想）の提出を求める。						
評価基準と評価方法	平常点（30%）、小レポート（30%）、および検査実習レポート（40%）により評価する。						
教科書	必要に応じて、プリントを配布する。						
参考書	適時紹介する。						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	統計基礎論／心理統計法						
担当教員	野口 泰基						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	統計を「使う」						
授業の概要	心理学では、実験や調査によってデータを収集し、それを統計的に分析することで意味のある結果を見出し、そこから人間の心のありようを推測します。従って、心理学を学ぶ上で統計学の知識は欠かせないものです。ただし、必ずしも学問としての「統計学」を隅々まで理解する必要はありません。本講義では極力数式による説明をせずに、統計学的な知識を用いてデータを解釈する、そのエッセンスを理解できるよう進めていきます。						
到達目標	統計学的知識を用いてデータを解釈できるようになります。様々なタイプのデータがあることを理解し、そうしたデータの意味や、そのデータから推測できることを学ぶことで、心理学的なデータを分析する方法を習得します。						
授業計画	第1回 統計を学ぶ目的 第2回 変数とデータ 第3回 度数分布の表し方 第4回 代表値 第5回 散布度 第6回 正規分布 第7回 中間テスト 第8回 相関 第9回 相関と因果 第10回 記述統計と推測統計 第11回 統計的検定の基本的な考え方 第12回 統計的検定の基本用語 第13回 量的変数の差の検定 第14回 質的変数の差の検定 第15回 まとめと質疑応答						
授業外における学習（準備学習の内容）	必要に応じて図書館にある本などで統計について勉強してください。講義で扱った内容を別の形で説明しているものもあります。そうしたものに目を通すことで講義の内容に関してさらに理解が進みます。また、講義の内容を復習し、疑問が出てきたら次の回で質問し、しっかりと理解することが大切です。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	平常点 30% 中間テスト 30 % 期末テスト 40 %						
教科書							
参考書	「本当にわかりやすいすごく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本」吉田寿夫（著） 北大路書房						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	統計基礎論／心理統計法						
担当教員	野口 泰基						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	統計を「使う」						
授業の概要	心理学では、実験や調査によってデータを収集し、それを統計的に分析することで意味のある結果を見出し、そこから人間の心のありようを推測します。従って、心理学を学ぶ上で統計学の知識は欠かせないものです。ただし、必ずしも学問としての「統計学」を隅々まで理解する必要はありません。本講義では極力数式による説明をせずに、統計学的な知識を用いてデータを解釈する、そのエッセンスを理解できるよう進めていきます。						
到達目標	統計学的知識を用いてデータを解釈できるようになります。様々なタイプのデータがあることを理解し、そうしたデータの意味や、そのデータから推測できることを学ぶことで、心理学的なデータを分析する方法を習得します。						
授業計画	第1回 統計を学ぶ目的 第2回 変数とデータ 第3回 度数分布の表し方 第4回 代表値 第5回 散布度 第6回 正規分布 第7回 中間テスト 第8回 相関 第9回 相関と因果 第10回 記述統計と推測統計 第11回 統計的検定の基本的な考え方 第12回 統計的検定の基本用語 第13回 量的変数の差の検定 第14回 質的変数の差の検定 第15回 まとめと質疑応答						
授業外における学習（準備学習の内容）	必要に応じて図書館にある本などで統計について勉強してください。講義で扱った内容を別の形で説明しているものもあります。そうしたものに目を通すことで講義の内容に関してさらに理解が進みます。また、講義の内容を復習し、疑問が出てきたら次の回で質問し、しっかりと理解することが大切です。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	平常点 30% 中間テスト 30 % 期末テスト 40 %						
教科書							
参考書	「本当にわかりやすいすごく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本」吉田寿夫（著） 北大路書房						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理の仕事						
担当教員	単位認定者：中村 博文						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	2~3	単位数	2.0
授業のテーマ	職業としての心理学						
授業の概要	心理学の専門性を活かして様々な現場で活躍する職業人に、オムニバス形式で講義をお願いする。						
到達目標	社会の中の様々な領域で、心理学の知識がどのように活かされているかを具体的に知ることができる。また、そのことを通じて、自分自身の将来像を描けるようになる。						
授業計画	#01：イントロダクション #02：心療内科クリニックでの心理の仕事 #03：医療事務で心理の知識をどういかせるか #04：精神科病院／復職支援での心理の仕事 #05：緩和ケアにおける心理の仕事 #06：アニマルセラピストという仕事 #07：大学院でプロフェッショナルを目指すということ #08：施設心理相談／精神保健福祉士という仕事 #09：教育センターでの心理の仕事 #10：介護士の仕事に心理の知識をどういかせるか #11：情緒障害児施設における心理の仕事 #12：大学病院での心理の仕事 #13：県警での被害者支援カウンセラーの仕事 #14：児童相談所での心理の仕事 #15：総括						
授業外における学習（準備学習の内容）	各回の話に関連する文献を検索し、読むことで、それぞれの領域についての理解を深めることを求める。						
授業方法	オムニバスの講義形式。						
評価基準と評価方法	平常点（50%）、ならびに毎回の小レポート（50%）により評価する。						
教科書	指定しない。						
参考書	指定しない。						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理療法I						
担当教員	中村 博文						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	3~4	単位数	2.0
授業のテーマ	精神分析と精神分析的な心理療法						
授業の概要	精神分析とは、Freud, S.により創始された心理学理論、かつその理論に基づく心理学的援助技法の体系である。また、精神分析の考え方や技法を基盤として行われる心理療法を、精神分析的な心理療法という。この授業では、精神分析の基本的な考え方を学ぶとともに、精神分析的な心理療法の実際について学習する。						
到達目標	精神分析の基本的な考え方や概念について、理解することができる。 精神分析や精神分析的な心理療法の技法について、知ることができる。						
授業計画	#01：オリエンテーションー精神分析・精神分析的な心理療法とは？ #02：精神分析の基本的な観点①：局所論／構造論 #03：精神分析の基本的な観点②：力動論 #04：精神分析の基本的な観点③：経済論 #05：精神分析の基本的な観点④：発達論 #06：精神分析の発展①：アドラーとユング #07：精神分析の発展②：精神分析の学派(1)ー自我心理学・対象関係論 #08：精神分析の発展③：精神分析の学派(2)ー自己心理学・対人関係論 #09：精神分析の発展④：対象の拡大 #10：精神分析と精神分析的な心理療法①：精神分析の基礎にあるもの #11：精神分析と精神分析的な心理療法②：精神分析の技法(1) #12：精神分析と精神分析的な心理療法③：精神分析の技法(2) #13：精神分析と精神分析的な心理療法④：精神分析の新しい流れ #14：まとめ、試験 #15：試験解題						
授業外における学習(準備学習の内容)	授業各回のテーマについて、配付資料に記載されている参考文献を読み、理解を深めることを求める。						
授業方法	講義形式。 毎回授業の最後に、小レポート(問いに対する回答、質問、感想)の提出を求める。						
評価基準と評価方法	毎回の小レポート(14%)、および期末試験(86%)により評価する。						
教科書	必要に応じて、プリントを配布する。						
参考書	適時紹介する。						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理療法II						
担当教員	寺井 さち子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	3~4	単位数	2.0
授業のテーマ	子どもが呈する様々な病理を学び、心理療法の意義を知る。						
授業の概要	乳幼児から青年期に至る発達途上の子どもの心理症状や病理、障害について正しい理解を得る。						
到達目標	子どもの問題について一定の知識を得ること。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション シラバスの紹介と合意 2. 子どもの心の問題を考えるには 3. 症状について 4. 主に乳幼児から幼児期に見られる症状①あやしても反応が弱い子 5. 乳幼児に見られる症状②親から離れにくい子 6. アタッチメントのシグナル行動 7. 幼児期の子ども①遊びと心の発達 8. 遊べることの重要性 9. 幼児期の習癖異常①チック障害 ②指しゃぶり、爪噛み 10. 幼児期の習癖異常③抜毛症 ④自慰 11. 子どもと睡眠 12. 排泄と心の問題 13. ヒステリーと癲癇 14. 虚言癖や粗暴行為 15. 総まとめと学んだ知識の定着 						
授業外における学習（準備学習の内容）	日頃から子どもたちの様子に関心を示し、テレビの子ども関連番組なども積極的に観ること。						
授業方法	板書中心で、必要に応じてDVDを使用することもあるが、基本的に講義を中心にした比較的専門性の高い内容である。						
評価基準と評価方法	最終回の、到達度を見るテスト結果を主な評価の対象とする。						
教科書	使用せず。						
参考書	「気づいて！こどもの心のSOS」						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理療法III						
担当教員	坂本 真佐哉						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	3~4	単位数	2.0
授業のテーマ	家族療法（システムズアプローチ）およびブリーフセラピーの理論と実際について学ぶ。						
授業の概要	家族システムやコミュニケーション・システムの変化をめざした心理療法をはじめ、解決構築など近年の社会構成主義的心理療法の分野について実際の事例を交えながら講義を行う。心理療法における「問題」の捉え方とその解決に関する考え方などについて、システム論や社会構成主義の観点から学び、さまざまな角度から物事をとらえる視点や考え方を養う。						
到達目標	家族療法（システムズアプローチ）およびブリーフセラピーの理論と実際に関する知識を獲得し、心理的な問題解決に関して広い視野をもつことができること。						
授業計画	第1回：心理療法における「問題」の捉え方 第2回：さまざまな心理援助の技法と家族療法、ブリーフセラピー 第3回：家族療法の理論と実際（1）家族療法とシステム論 第4回：家族療法の理論と実際（2）家族療法の実際 第5回：ブリーフセラピー概論 第6回：ミルトン・エリクソンの心理療法 第7回：MRIモデルの理論と技法（1） 第8回：MRIモデルの理論と技法（2） 第9回：ソリューション・フォーカスト・アプローチの理論と技法（1） 第10回：ソリューション・フォーカスト・アプローチの理論と技法（2） 第11回：ソリューション・フォーカスト・アプローチの理論と技法（3） 第12回：ナラティブ・セラピー（1） 第13回：ナラティブ・セラピー（2） 第14回：ブリーフセラピーの理論を用いたコミュニケーション・トレーニング 第15回：試験と総括						
授業外における学習（準備学習の内容）	家族療法およびブリーフセラピーに関する専門書を読むこと。						
授業方法	講義形式						
評価基準と評価方法	平常点30%、試験70%						
教科書							
参考書	遊佐安一郎著「家族療法入門—システムズ・アプローチの理論と実際」星和書店 坂本真佐哉、和田憲明、東 豊著「心理療法テクニックのススメ」金子書房						

科目区分	心理学科専門教育科目																																																			
科目名	心理療法Ⅳ																																																			
担当教員	安達 圭一郎																																																			
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	3~4	単位数	2.0																																													
授業のテーマ	対人関係療法（IPT）の技法の特徴や経過について概説する。																																																			
授業の概要	西洋諸国では、認知行動療法と双璧をなすエビデンスベーストな（科学的根拠のある）心理療法と言われている。本講義では、こうしたIPTの治療技法、治療経過、必要とされる治療者の態度などを概説し、一部ロールプレイも交えながら、学生のIPT理解を促したい。																																																			
到達目標	IPTそのものの習熟というよりも、IPTにおける治療者の役割や視点について学ぶ。																																																			
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>第1回</td> <td>オリエンテーション</td> <td>講義概要と受講用件の確認</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>IPTとは①</td> <td>概観と特徴</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>IPTとは②</td> <td>目標と適用</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>IPTとは③</td> <td>科学的根拠について</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>IPTとは④</td> <td>治療者の役割と患者の役割</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>IPTの治療プロセス①</td> <td>初期①</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>IPTの治療プロセス②</td> <td>初期②</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>IPTの治療プロセス②</td> <td>中期①</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>IPTの治療プロセス③</td> <td>中期②</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>IPTの治療プロセス④</td> <td>終結期</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>IPTによる治療事例①</td> <td>うつ病患者に対する自験例</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>IPTによる治療事例②</td> <td>社会不安性障害患者に対する自験例</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>IPTの応用</td> <td>双極性障害、パーソナリティ障害、高齢者などへの応用</td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>IPT技法のまとめ</td> <td>IPTで用いられる技法の意味</td> </tr> <tr> <td>第15回</td> <td>まとめと試験</td> <td></td> </tr> </table>							第1回	オリエンテーション	講義概要と受講用件の確認	第2回	IPTとは①	概観と特徴	第3回	IPTとは②	目標と適用	第4回	IPTとは③	科学的根拠について	第5回	IPTとは④	治療者の役割と患者の役割	第6回	IPTの治療プロセス①	初期①	第7回	IPTの治療プロセス②	初期②	第8回	IPTの治療プロセス②	中期①	第9回	IPTの治療プロセス③	中期②	第10回	IPTの治療プロセス④	終結期	第11回	IPTによる治療事例①	うつ病患者に対する自験例	第12回	IPTによる治療事例②	社会不安性障害患者に対する自験例	第13回	IPTの応用	双極性障害、パーソナリティ障害、高齢者などへの応用	第14回	IPT技法のまとめ	IPTで用いられる技法の意味	第15回	まとめと試験	
第1回	オリエンテーション	講義概要と受講用件の確認																																																		
第2回	IPTとは①	概観と特徴																																																		
第3回	IPTとは②	目標と適用																																																		
第4回	IPTとは③	科学的根拠について																																																		
第5回	IPTとは④	治療者の役割と患者の役割																																																		
第6回	IPTの治療プロセス①	初期①																																																		
第7回	IPTの治療プロセス②	初期②																																																		
第8回	IPTの治療プロセス②	中期①																																																		
第9回	IPTの治療プロセス③	中期②																																																		
第10回	IPTの治療プロセス④	終結期																																																		
第11回	IPTによる治療事例①	うつ病患者に対する自験例																																																		
第12回	IPTによる治療事例②	社会不安性障害患者に対する自験例																																																		
第13回	IPTの応用	双極性障害、パーソナリティ障害、高齢者などへの応用																																																		
第14回	IPT技法のまとめ	IPTで用いられる技法の意味																																																		
第15回	まとめと試験																																																			
授業外における学習（準備学習の内容）	講義前にはテキストの該当箇所を読んでおくこと。																																																			
授業方法	講義方式と一部演習。																																																			
評価基準と評価方法	受講態度30%、期末試験70%																																																			
教科書	水島広子「臨床家のための対人関係療法入門ガイド」創元社																																																			
参考書																																																				

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	ジェンダーの心理学						
担当教員	土肥 伊都子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	3~4	単位数	2.0
授業のテーマ	ジェンダー（男女の社会的役割）についての心理学を学ぶ						
授業の概要	男女に対する固定観念が、ジェンダー・ステレオタイプである。本講義では、ジェンダー・ステレオタイプがなぜ作られ、それがどのように維持されるのか、あるいはいかに変容するかを社会心理学の知見に基づき学習する。						
到達目標	個人の心の中にジェンダーが浸透していることに気づくこと。 その心の中のジェンダーによりステレオタイプが生まれ、ジェンダー社会を維持するしくみを理解すること。 ジェンダー・ステレオタイプから自由に生きるための方法を習得すること。						
授業計画	第1回 ジェンダーへの心理学的アプローチ 第2回 セックスとジェンダー 第3回 ジェンダー・ステレオタイプの形成と維持 第4回 ジェンダー・スキーマ 第5回 集団とジェンダー・ステレオタイプ 第6回 性別分業社会とジェンダー・ステレオタイプ 第7回 ジェンダーの社会化（1） 第8回 ジェンダーの社会化（2） 第9回 夫婦、男女間のコミュニケーション 第10回 ジェンダーによる心身への影響-女性の場合- 第11回 ジェンダーによる心身への影響-男性の場合- 第12回 心理学の学問におけるジェンダー・ステレオタイプ 第13回 ジェンダー・ステレオタイプの軽減 第14回 前期授業の質疑応答 第15回 前期試験とまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業の前後に、教科書を読む。 授業で使用したスライドを各自で印刷して、復習する。						
授業方法	講義形式						
評価基準と評価方法	平常点30%，定期試験70%						
教科書	「ジェンダーの心理学」 青野篤子・森永康子・土肥伊都子（著）（ミネルヴァ書房）						
参考書							

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	情報社会の心理学／情報社会の心理						
担当教員	福井 齊						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	3～4	単位数	2.0
授業のテーマ	情報社会の光と影が“心”に及ぼす影響について						
授業の概要	インターネットやケータイ（携帯電話）の爆発的な普及は情報伝達の空間的、時間的距離を短縮しましたが、一方で情報への依存度も高まっています。この授業では、具体的なトピックを交えて情報社会の光と影が私たちの“心”に及ぼす影響について考察していきます。						
到達目標	情報社会の心理学の基礎的知見を習得し、日常生活や人間関係を心理学的観点から考える視点を身につけ、情報社会に生きる人間に対する興味を深めること						
授業計画	① ガイダンス、およびコミュニケーションの変容 ② うわさ（Ⅰ）：うわさの普及過程 ③ うわさ（Ⅱ）：うわさへの対処法 ④ うわさ（Ⅲ）：くちコミと消費者行動 ⑤ うわさ（Ⅳ）：web上でのくちコミ ⑥ うわさ（Ⅴ）：ブランド ⑦ 流行現象：流行の普及過程のメカニズム ⑧ ケータイとコミュニケーション（Ⅰ）：ケータイの普及 ⑨ ケータイとコミュニケーション（Ⅱ）：希薄化論と選択的關係論 ⑩ インターネットとコミュニケーション（Ⅰ）：インターネット・パラドックス ⑪ インターネットとコミュニケーション（Ⅱ）：フレーミング ⑫ 目撃証言：有用性と危険性 ⑬ リテラシー問題：情報活用力とは ⑭ 情報社会の心理の総合的理解 ⑮ 試験と解説						
授業外における学習（準備学習の内容）	毎回、講義終了時に次回講義のキーワードや参考図書を指示します（参考図書を熟読することが望ましい）						
授業方法	講義（毎回、レジュメを配布します）						
評価基準と評価方法	期末試験と授業への取り組み姿勢（出席、授業態度、ミニレポート）、確認テスト（抜き打ち形式）で総合的に評価します <評価の目安：期末試験6割、授業への取り組み姿勢3割、確認テスト1割>						
教科書							
参考書	川上 善郎 うわさが走る—情報伝播の社会心理 サイエンス社 広井脩（監修） 情報行動と社会心理 北樹出版 児島和人・橋元良明 変わるメディアと社会生活 ミネルヴァ書房 など						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	児童期の臨床心理学／臨床心理学研究法Ⅱ						
担当教員	寺井 さち子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜1	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	児童期とはどういう時代であるべきかについて、じっくり考える機会とする。						
授業の概要	臨床心理学的立場から、幅広く人の心についての理解を深める。臨床実践的目的だけでなく、より広い視点に立ち、目頃からの子ども理解や子どもを育てる立場になった際に役立つような、子ども理解に関する幅広い内容を目指す。簡単なロールプレイ、エンカウンタープログラム、またディスカッションなどを盛り込み、講義と実践的体験を織り込んだ授業を展開する。						
到達目標	学生たちの中にもある瑞々しい感性を活性化し、生き生きとした子どもの自己を蘇らせ、子ども理解につなげる						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床心理の分野についての概説。 2. 自分を知る試み 私ってだれ？ 3. 精神的健康と自己のあり方。心理テスト実践。 4. 子どもの絵を通して考える心理理解。 5. 童謡や詩を通して考える心理① 6. 絵本を通して考える心理①「怪獣達のいるところ」 7. 絵本を通して考える心理②「100万回生きた猫」 8. 童話を通して考える心理①「イソップ物語」から 9. 童話を通して考える心理②「アルプスの少女ハイジ」 10. ビデオを通して考える心理「ポニョとトトロ」から 11. ビデオを通して考える心理「千と千寿の神隠し」から 12. 児童文学を通して考える「星の王子様」から 13. 世界の子供たちを知る 13. 臨床における子どもについての解説 14. 総合的講義 15. まとめと到達度確認(試験) 						
授業外における学習(準備学習の内容)	ボランティアに出るなど、子どもと積極的に触れ合うことが望まれる。						
授業方法	板書中心の講義と討論などからなるが、体験的プログラムも多いので、そのつもりで出席すること。						
評価基準と評価方法	評価は試験を中心に行うが、平常点30%とし、欠席の場合減点する。						
教科書	必要に応じて適宜、プリントや本、ビデオ等学習材料を用意する。						
参考書	特になし。						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	人格心理学						
担当教員	日置 孝一						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	2~3	単位数	2.0
授業のテーマ	パーソナリティに関する諸理論の紹介						
授業の概要	本講義ではヒトを理解するための基本的な枠組みとして、人格（パーソナリティ）に関する研究やその方法論を概括し、自分も含めたヒトについて、様々な角度から理解を深めることを目的とする。						
到達目標	パーソナリティ形成に関わる心理モデルについて理解します。また、各種測定法・実験計画法など心理学の基礎的な知識を学びます。						
授業計画	第1回目：人格（パーソナリティ）心理学とは 第2回目：定義 第3回目：研究史 第4回目：諸理論（1） 第5回目：諸理論（2） 第6回目：パーソナリティと発達（1） 第7回目：パーソナリティと発達（2） 第8回目：パーソナリティと対人関係 第9回目：パーソナリティと文化 第10回目：パーソナリティの測定法（1） 第11回目：パーソナリティの測定法（2） 第12回目：実験計画法 第13回目：自分のパーソナリティを考える 第14回目：試験 第15回目：まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業用資料をweb上にアップします。授業前にダウンロードしておいてください。URLは http://www.b.kobe-u.ac.jp/~hioki/shoin/ です。パスワードは初回に紹介します。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	試験のみ						
教科書	なし						
参考書	講義中に紹介						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	成人期・老年期の臨床心理学						
担当教員	中村 博文						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	3~4	単位数	2.0
授業のテーマ	成人期・老年期の心理的課題と危機						
授業の概要	本講義では、成人期および老年期における心理的な発達や発達課題、またこれらの時期に生じやすい問題や危機について概観する。その上で、それぞれの時期における臨床心理学的な援助について検討する。						
到達目標	成人期ならびに老年期の心理学的特徴、またそれぞれの時期に生じやすい問題について、理解することができる。						
授業計画	#01：オリエンテーションー生涯発達論的視座から見た成人期と老年期 #02：成人期の心理学的特徴と発達課題 #03：結婚・妊娠・出産 #04：子育て #05：職場における問題（1）：ストレスとメンタルヘルス #06：職場における問題（2）：うつ病と自殺 #07：老親の介護における心理的問題 #08：中年期危機 #09：老年期の心理学的特徴と発達課題 #10：認知症 #11：老年期うつと妄想 #12：老年期における喪失体験 #13：老年期における死の問題 #14：まとめ、試験 #15：試験解題						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業各回のテーマについて、配付資料に記載されている参考文献を読み、理解を深めることを求める。						
授業方法	講義形式。 毎回授業の最後に、小レポート（問いに対する回答、質問、感想）の提出を求める。						
評価基準と評価方法	毎回の小レポート（14%）、および期末試験（86%）により行う。						
教科書	必要に応じて、プリントを配布する。						
参考書	適時紹介する。						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	生と死の心理学						
担当教員	大和田 攝子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	3~4	単位数	2.0
授業のテーマ	生と死を学ぶ。						
授業の概要	病院やコミュニティなど臨床の場における生と死をめぐる問題について概観し、そこで必要とされる援助について考える。具体的には、末期患者の心理、病名告知、ホスピス緩和ケア、死別後の悲嘆、外傷的死別（災害、犯罪、事故、自殺など）、グリーフカウンセリングなどを取り上げ、さまざまな観点から死についての理解を深める。また、臓器移植や妊娠中絶など生命倫理にも触れ、現代の死の諸相について広く学ぶ。講義の他に、ロールプレイなどの実習やビデオ教材も適宜取り入れる。						
到達目標	誰もが避けることのできない死について心理学的に学ぶことで、実際に身近に起こったときにどのようにすればよいか学ぶことができる。						
授業計画	第1回：対象喪失と悲嘆 第2回：通常の悲嘆反応と複雑な悲嘆反応 第3回：悲嘆に影響を及ぼす要因 第4回：実習（1）自らの体験に学ぶ 第5回：さまざまな喪失（1） 第6回：さまざまな喪失（2） 第7回：ケアを行う際の基本的姿勢 第8回：支援の方法 第9回：実習（2）グリーフカウンセリング 第10回：病名の告知 第11回：ホスピス緩和ケアとQOL 第12回：末期患者と家族のケア 第13回：生命倫理 第14回：グループ発表と討議 第15回：質疑応答と試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	教科書を事前に読んでおくことが望ましい。						
授業方法	講義（実習も含む）						
評価基準と評価方法	試験（60%）や授業中に出す課題の提出（20%）、平常点（20%）などを総合的に評価する。						
教科書	柏木哲夫（著）『死を学ぶ』有斐閣 ISBN4-641-07582-4						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	青年期の臨床心理学／臨床心理学研究法V						
担当教員	黒崎 優美						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	青年期の課題に対する臨床心理学的アプローチによる分析と理解						
授業の概要	<p>目的： 青年期に誰もが直面する発達の課題や、青年期特有の教育問題、社会問題、精神疾患等について、臨床心理学的な観点から分析し、理解や援助のあり方を探ります。</p> <p>概要： 毎回具体的な青年期の課題をテーマとして取り上げ、理論的な側面からだけでなく、臨床的素材や心理療法の実践等についても紹介しながら理解を深めます。</p>						
到達目標	青年期の諸問題について理解を深めるだけでなく、自らその発達段階にある受講生自身の課題としてテーマに取り組み、成長することを目指します。						
授業計画	<p>第1回 導入 ～生涯発達における青年期～</p> <p>第2回 青年期の心と対人関係 ～「恋愛・結婚」への臨床心理学的接近(1)～</p> <p>第3回 青年期の心と対人関係 ～「恋愛・結婚」への臨床心理学的接近(2)～</p> <p>第4回 青年期の心と対人関係 ～「家族」への臨床心理学的接近～</p> <p>第5回 青年期の心と対人関係 ～「友情」への臨床心理学的接近～</p> <p>第6回 青年期の心と対人関係 ～「恋愛・結婚」への臨床心理学的接近(1)～</p> <p>第7回 青年期の心と社会適応 ～「就職」への臨床心理学的接近(1)～</p> <p>第8回 青年期の心と社会適応 ～「就職」への臨床心理学的接近(2)～</p> <p>第9回 青年期の心と社会適応 ～「NEET・ひきこもり」への臨床心理学的接近(1)～</p> <p>第10回 青年期の心と社会適応 ～「NEET・ひきこもり」への臨床心理学的接近(2)～</p> <p>第11回 青年期の心と社会適応 ～「自殺」への臨床心理学的接近～</p> <p>第12回 青年期の心と社会適応 ～「犯罪」への臨床心理学的接近～</p> <p>第13回 青年期の心と社会適応 ～「発達障害」への臨床心理学的接近～</p> <p>第14回 まとめと試験</p> <p>第15回 総括</p>						
授業外における学習(準備学習の内容)	<p>授業前学習： 次回のテーマに関する課題を出すことがあります。</p> <p>授業後学習： 授業で紹介する参考文献を読みさらに理解を深めて下さい。</p>						
授業方法	講義形式						
評価基準と評価方法	平常点(授業レポートを含む)60%、期末試験40%						
教科書	なし。プリントを配布します。						
参考書	適宜紹介します。						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	生理心理学						
担当教員	中尾 美月						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2~3	単位数	2.0
授業のテーマ	心と身体 の関係を科学する。						
授業の概要	心はどこにあるのだろうか。それは脳だろうか。緊張すると心臓がドキドキしたり、胃が痛くなったりするということは、心臓や胃にあるのだろうか。それとも身体 のどこにも存在しないのだろうか。この授業では、心と身体 の関係について、古典的ともいえる知見から、最新の脳科学研究の成果に至るまで、数多くの興味深いトピックを紹介する。さらに、各トピックに対して自らの意見をまとめることで、人に対するより深い理解と関心が持てるようになることを目指す。						
到達目標	心と身体 の関係について基礎的な知識が習得できる。 ものごとを科学的に理解し考える力が身につく。						
授業計画	第1講 生理心理学とは 第2講 脳 ~あなたは右脳タイプ?左脳タイプ?~ 第3講 知覚 ~青い食べ物でダイエット?~ 第4講 顔認識 ~なぜアヒル口に惹かれるのか~ 第5講 記憶1 ~H.M.の亡霊~ 第6講 記憶2 ~マインドマップを描こう~ 第7講 記憶3 ~鬼トレで脳力UP?~ 第8講 発達1 ~赤ちゃんはワンダーランド~ 第9講 発達2 ~私の頭の中の鏡~ 第10講 恋愛 ~愛は麻薬? それとも絆?~ 第11講 ストレス ~癒しはどこにある?~ 第12講 人間らしさ ~脳の中のもう一人の私~ 第13講 心と身体 ~心はどこにある?~ 第14講 まとめと試験 第15講 おわりに						
授業外における学習(準備学習の内容)	授業で学んだ内容を自分の日常生活に生かそうとする姿勢を歓迎する。						
授業方法	講義形式で行う。基本的にパワーポイントと配付資料で授業を進める。 毎回、授業の最後にミニ・レポートの作成を求める。						
評価基準と評価方法	ミニ・レポート70%、期末試験30%						
教科書	テキストは使用しない。毎週、資料を配布する。						
参考書	参考文献は必要に応じて適宜紹介する。						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	卒業研究/Graduation Thesis						
担当教員	安達 圭一郎						
学期	通年/Full Year	曜日・時限	月曜4	配当学年	4	単位数	8.0
授業のテーマ	心理学演習で作成した研究計画書に従い、卒業論文の作成をおこなう。						
授業の概要	研究計画書の見直し、文献の補充、調査用紙（実験道具）などの準備、データの収集と分析といった一連の作業をおこない、論文としての体裁を整えていく。						
到達目標	卒業論文を作成する。						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 研究計画書の見直し① 第3回 研究計画書の見直し② 第4回 調査用紙・実験道具などの準備① 第5回 調査用紙・実験道具などの準備② 第6回 調査用紙・実験道具などの準備③ 第7回 調査用紙・実験道具などの準備④ 第8回 調査・実験などの実施① 第9回 調査・実験などの実施② 第10回 調査・実験などの実施③ 第11回 調査・実験などの実施④ 第12回 データの入力① 第13回 データの入力② 第14回 データの入力③ 第15回 データの入力④ 第16回 統計解析① 第17回 統計解析② 第18回 統計解析③ 第19回 論文作成① 第20回 論文作成② 第21回 論文作成③ 第22回 論文作成④ 第23回 論文作成⑤ 第24回 論文作成⑥ 第25回 論文作成⑦ 第26回 論文作成⑧ 第27回 論文の仕上げ① 第28回 論文の仕上げ② 第29回 論文の発表① 第30回 論文の発表②	今後の進め方などの確認 ゼミ内での発表会をおこなう① ゼミ内での発表会をおこなう②	問題・目的を書く（文献の補充） 方法を書く 結果を書く（図、表の作成） 結果を書く（図、表の作成） 考察を書く①（文献の補充） 考察を書く②（文献の補充） 今後の課題を考え、記載する 参考文献の整理と記入 学生相互による誤字脱字チェック 要約、資料の作成 ゼミ内で発表する① ゼミ内で発表する②				
授業外における学習（準備学習の内容）	さらなる文献検索、調査・実験などの準備、データ入力、統計解析、論文作成など授業時間外での活動を意欲的におこなう必要がある。						
授業方法	ゼミナール方式						
評価基準と評価方法	日頃の取り組みの態度60%、論文の評価40%						
教科書							
参考書							

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	卒業研究/Graduation Thesis						
担当教員	大和田 攝子						
学期	通年/Full Year	曜日・時限	月曜4	配当学年	4	単位数	8.0
授業のテーマ	卒業論文の作成						
授業の概要	各自が選んだテーマに沿って研究を計画・実施し、卒業論文としてまとめる。進行状況に応じて中間発表会を行うが、全体的には個別指導が中心となる。						
到達目標	卒業論文を作成すること。						
授業計画	第1回：オリエンテーション 第2回：研究テーマの決定 (1) 第3回：研究テーマの決定 (2) 第4回：研究計画の立案 (1) 第5回：研究計画の立案 (2) 第6回：研究計画の立案 (3) 第7回：研究計画の立案 (4) 第8回：調査・実験の準備 (1) 第9回：調査・実験の準備 (2) 第10回：調査・実験の準備 (3) 第11回：調査・実験の準備 (4) 第12回：調査・実験の準備 (5) 第13回：データ収集 (1) 第14回：データ収集 (2) 第15回：データ収集 (3) 第16回：卒論中間発表会 第17回：データの入力と分析 (1) 第18回：データの入力と分析 (2) 第19回：データの入力と分析 (3) 第20回：データの入力と分析 (4) 第21回：論文執筆 (1) 第22回：論文執筆 (2) 第23回：論文執筆 (3) 第24回：論文執筆 (4) 第25回：論文執筆 (5) 第26回：校正 (1) 第27回：校正 (2) 第28回：校正 (3) 第29回：口頭試問 (1) 第30回：口頭試問 (2)						
授業外における学習(準備学習の内容)	調査・実験の実施やデータ処理、論文執筆等は各自のペースで自主的に進めること。						
授業方法	演習形式による授業と個別指導						
評価基準と評価方法	研究に取り組む姿勢 (50%) と卒業論文 (50%)						
教科書							
参考書							

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	卒業研究/Graduation Thesis						
担当教員	久津木 文						
学期	通年/Full Year	曜日・時限	月曜4	配当学年	4	単位数	8.0
授業のテーマ	卒業研究の実施及び論文の作成						
授業の概要	心理学演習で練ってきた卒業研究の計画を実施し論文としてまとめていく作業を行う。						
到達目標	自らの興味を実験・調査として行い、論文としてまとめられるようになる。						
授業計画	第1回 オリエンテーション・卒業研究実施スケジュールの確認 第2回 研究計画の発表(1) 第3回 研究計画の発表(2) 第4回 実験・調査実施準備(1) 第5回 実験・調査実施準備(2) 第6回 実験・調査実施準備(3) 第7回 実験・調査の仮実施(1) 第8回 実験・調査の仮実施(2) 第9回 実験・調査方法の変更・改善(1) 第10回 実験・調査方法の変更・改善(2) 第11回 実験・調査の実施(1) 第12回 実験・調査の実施(2) 第13回 実験・調査の実施(3) 第14回 データの入力と処理(1) 第15回 データの入力と処理(2) 第16回 データの入力と処理(3) 第17回 方法、結果の発表(1) 第18回 方法、結果の発表(2) 第19回 論文執筆(序論1) 第20回 論文執筆(序論2) 第21回 論文執筆(序論3) 第22回 論文執筆(結果1) 第23回 論文執筆(結果2) 第24回 論文執筆(考察1) 第25回 論文執筆(考察2) 第26回 問題、考察の発表と討論(1) 第27回 問題、考察の発表と討論(2) 第28回 文献リストの作成 第29回 要約、資料の作成 第30回 論文の仕上げ						
授業外における学習(準備学習の内容)	卒業論文については授業時間で教えられることは限られている。自主的に進めている実験・調査、論文執筆等の作業の報告や確認作業を授業では行うため、その他の部分は授業外で自主的に進める必要がある。						
授業方法	ゼミナール方式						
評価基準と評価方法	自主的に研究を進めていく態度・能力に対する評価 60% 最終論文評価 40%						
教科書	適宜資料を配布						

参考書	適宜資料を配布
-----	---------

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	卒業研究/Graduation Thesis						
担当教員	黒崎 優美						
学期	通年/Full Year	曜日・時限	月曜4	配当学年	4	単位数	8.0
授業のテーマ	卒業論文作成に向けての研究						
授業の概要	心理学演習Bに引き続き、卒業研究を行い卒業論文として完成させることを目的とします。						
到達目標	設定した一つのテーマについて調べた結果の分析、論文作成という課題を通して、心理学的研究法やテーマについての専門的知識を得るだけでなく、論理的思考力や文章構成力などについても習得を目指します。						
授業計画	第1回 今後の研究の進め方について 第2回 データ分析(1) ～データの整理～ 第3回 データ分析(2) ～記述統計～ 第4回 データ分析(3) ～多変量解析1～ 第5回 データ分析(4) ～多変量解析2～ 第6回 データ分析(5) ～作図・作表1～ 第7回 データ分析(6) ～作図・作表2～ 第8回 データ分析(7) ～統計資料の読み方について～ 第9回 問題から結果までの発表(1) ～発表資料製作1～ 第10回 問題から結果までの発表(2) ～発表資料作成2～ 第11回 問題から結果までの発表(3) ～発表と全体討議1～ 第12回 問題から結果までの発表(4) ～発表と全体討議2～ 第13回 論文とは 第14回 論文の書き方 第15回 成果と後期に向けての課題 第16回 今後の研究の進め方について 第17回 卒業論文製作(1) ～問題の書き方～ 第18回 卒業論文製作(2) ～問題と仮説～ 第19回 卒業論文製作(3) ～問題と仮説～ 第20回 卒業論文製作(4) ～方法の書き方～ 第21回 卒業論文製作(5) ～方法～ 第22回 卒業論文製作(6) ～結果の書き方～ 第23回 卒業論文製作(7) ～結果～ 第24回 卒業論文製作(8) ～結果～ 第25回 卒業論文製作(9) ～考察の書き方～ 第26回 卒業論文製作(10) ～考察～ 第27回 卒業論文製作(11) ～考察～ 第28回 卒業論文製作(12) ～目次、文献、資料等～ 第29回 卒業論文製作(13) ～仕上げ～ 第30回 卒業研究発表会						
授業外における学習(準備学習の内容)	基本的な活動は授業外に行い、授業では進捗状況の確認や修正を行います。研究テーマに関する文献にもできるだけ多く触れてください。						
授業方法	ゼミ形式、および個別指導						
評価基準と評価方法	研究やゼミで行うその他の活動に対する参加・貢献度、成果物などを総合的に評価します。						
教科書	なし						

参考書	適宜紹介します。
-----	----------

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	卒業研究/Graduation Thesis						
担当教員	寺井 さち子						
学期	通年/Full Year	曜日・時限	月曜4	配当学年	4	単位数	8.0
授業のテーマ	三年生の終わりに決定した卒業研究について、4月当初に作成した計画に基づき、恙なく研究活動を進めること。						
授業の概要	卒業論文の作成 心理学演習で進めてきた子どもに関する学習をもとに、卒業研究のテーマを定め、その作成に取り組む。 具体的には、研究計画書の提出（それについての発表と討論）、調査・実験の実施（前期中の実施を目標とする）、データの整理などであり、個別指導を中心に作成を進めるものとする。						
到達目標	学生自身が選んだ卒業研究のテーマについて、一つの論文として完成・提出すること。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 3年生最終時に決めた卒業論文のテーマについてもう一度整理しまとめる。 まとめたビジョンをゼミで発表する。 テーマに関する先行研究、関連書籍を図書館で調べる。 テーマに関する先行研究論文をサイニーで検索する。 できる限り多くの論文を集める。 多くの論文を読み込んで選別し、各自のテーマに即したものをピックアップする。 ピックアップした先行研究・関連図書から各自の論文の計画に沿った物、活用できるものを選別して概要をまとめ、ゼミで報告する。 データ収集法をはじめ詳細にわたる研究計画を作成し、担当教員に報告する。 調査用紙を作成する。 調査用紙あるいは実験内容を完成させ、周りのゼミ仲間などにやってみてもらう。 調査・実験等の実施を行う。 調査・実験の終了に向け補足調査等行う。 収集したローデータを集約する。 ローデータをパソコンに入力する。 一次集計結果を出す。 先行研究等を参考にして、一次集計結果を踏まえ必要な検定に取り掛かる。 SPSSあるいはエクセルを使用して必要な検定を実施する。 検定の結果を整理する。 一次集計及び検定結果等を表や図に表す。 方法と結果について文書化を進めながら、全体の論旨を思索する。 まとめておいた先行研究の結果や論旨を振り返る。 各自の研究結果と先行研究を照らし合わせる。 各自が得た検定結果と仮説を照らし合わせて心理学的分析に入る。 仮説と検定結果を照合したものを結果としてまとめ、文章化する。 はじめから方法、結果、考察と、論文作成を進める。 考察までの論文作成を進め、注や参考文献の整理も行う。 一旦出来上がった論文を担当教員に一度提出し、アドバイスを受け、修正する。 修正した論文を再度担当教員に提出し、最終チェックを受け、完成させる。 完成した論文を教務課に提出する。 提出した卒業研究について、ゼミ内で発表し互いに学びあう。 						
授業外における学習（準備学習の内容）	卒業論文に必要な先行研究の検索、心理学統計の学習などを各自で行うこと。						
授業方法	ゼミの時間内の指導と個別指導の両方で進める。あくまで学生が自分の卒業論文を仕上げることに目標があるので、学生が自ら積極的に研究し、進んだ分を教員が助言指導する形で指導を行う。						
評価基準と評価方法	平常の研究態度を30%とし、70%は論文の質や完成度によって評価する						
教科書	なし。						

参考書	各自が、各々の卒業研究に合わせて図書館の本を使用したりや論文を検索したりする。
-----	---

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	卒業研究/Graduation Thesis						
担当教員	土肥 伊都子						
学期	通年/Full Year	曜日・時限	月曜4	配当学年	4	単位数	8.0
授業のテーマ	卒業論文の作成						
授業の概要	心理学演習で取り上げた論文などを参考に、自らの研究をすすめるための指導を行う。具体的には、研究計画（テーマ、仮説、調査・実験方法など）を作成し、それについての発表、討論を行う。後半は、研究計画にしたがって、調査・実験を行い、各自の進行状況にしたがって、個別指導をする。最後に論文を仕上げ、提出する。						
到達目標	現実の社会生活に生かせる卒業論文を作成すること。						
授業計画	第1回 オリエンテーション、年間計画作成 第2回 文献検索（1） 第3回 文献検索（2） 第4回 研究計画の発表（1） 第5回 研究計画の発表（2） 第6回 質問紙、実験計画の作成（1） 第7回 質問紙、実験計画の作成（2） 第8回 質問紙、実験計画の発表と討論（1） 第9回 質問紙、実験計画の発表と討論（2） 第10回 調査、実験の実施（1） 第11回 調査、実験の実施（2） 第12回 調査、実験の実施（3） 第13回 データの入力と処理（1） 第14回 データの入力と処理（2） 第15回 データの入力と処理（3） 第16回 論文執筆（方法1） 第17回 論文執筆（方法2） 第18回 論文執筆（結果1） 第19回 論文執筆（結果2） 第20回 方法、結果の発表と討論（1） 第21回 方法、結果の発表と討論（2） 第22回 論文執筆（問題1） 第23回 論文執筆（問題2） 第24回 論文執筆（考察1） 第25回 論文執筆（考察2） 第26回 問題、考察の発表と討論（1） 第27回 問題、考察の発表と討論（2） 第28回 文献リストの作成 第29回 要約、資料の作成 第30回 論文の仕上げ						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業中の討論の内容をまとめ、記録しておく。 自主的に卒業論文を書き進める。						
授業方法	ゼミナール形式と個人指導						
評価基準と評価方法	平常点100%						
教科書							
参考書							

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	卒業研究/Graduation Thesis						
担当教員	中村 博文						
学期	通年/Full Year	曜日・時限	月曜4	配当学年	4	単位数	8.0
授業のテーマ	卒業論文の作成						
授業の概要	心理学演習Bで学生各自が決定したテーマについての研究を行い、その成果を卒業論文として提出する。						
到達目標	卒業論文の作成。						
授業計画	#01: 卒論ゼミの進め方についてのオリエンテーション #02: 研究テーマの最終検討① #03: 研究テーマの最終検討② #04: データ収集法の検討① #05: データ収集法の検討② #06: データ収集法の検討③ #07: データの収集① #08: データの収集② #09: データの収集③ #10: データの収集④ #11: データの収集⑤ #12: データのまとめ① #13: データのまとめ② #14: データのまとめ③ #15: データの分析① #16: データの分析② #17: データの分析③ #18: 中間報告 #19: 論文執筆① #20: 論文執筆② #21: 論文執筆③ #22: 論文執筆④ #23: 論文執筆⑤ #24: 卒業論文初稿の提出 #25: 論文修正① #26: 論文修正② #27: 論文修正③ #28: 卒業論文の提出 #29: 口頭試問① #30: 口頭試問②						
授業外における学習(準備学習の内容)	各自の研究テーマに沿って、研究を進めること。						
授業方法	演習形式。個別指導が中心となる。 研究の進行に沿って、経過報告を行う。						
評価基準と評価方法	研究へのコミットの程度(50%)、および卒業論文(50%)。						
教科書	指定しない。						

参考書	適時紹介する。
-----	---------

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	卒業研究/Graduation Thesis						
担当教員	待田 昌二						
学期	通年/Full Year	曜日・時限	月曜4	配当学年	4	単位数	8.0
授業のテーマ	卒業論文の作成						
授業の概要	人や動物の行動と心理について、学生各自がテーマを定めて論文を完成する。個別指導のみならず、学生相互の発表と討論を通して研究計画を練り上げ、具体的な研究を進め、結果の分析と考察を行なっていく。その過程で、プレゼンテーションの技術も磨いていく。						
到達目標	心理学の研究を行い、論文にまとめ発表する。						
授業計画	第1回 卒論の進め方 第2回 卒論テーマの設定 第3回 卒論テーマの発表 第4回 卒論関連文献の収集 第5回 卒論関連文献のまとめ 第6回 卒論問題の構成(1) 第7回 卒論問題の構成(2) 第8回 卒論の調査・実験方法について 第9回 卒論の調査・実験方法の検討 第10回 卒論の問題・方法の発表(1) 第11回 卒論の問題・方法の発表(2) 第12回 卒論の問題・方法の発表(3) 第13回 卒論の調査・実験の実施(1) 第14回 卒論の調査・実験の実施(1) 第15回 卒論の調査・実験の実施(2) 前期終了時に 卒業論文の問題・方法部分を待田まで提出 第16回 データ入力 第17回 データ処理方法 第18回 データ分析 第19回 基本的統計 第20回 統計的検定 第21回 結果のグラフ化(1) 第22回 結果のグラフ化(2) 第23回 結果の文章化(1) 第24回 結果の文章化(2) 第25回 考察(1) 第26回 考察(2) 第27回 引用文献、目次など卒論の全体の体裁 12月後半に卒業論文原稿を待田まで提出 第28回 卒業論文原稿の手直し 卒業論文提出 第29回 卒業論文発表準備 第30回 卒業論文発表会						
授業外における学習(準備学習の内容)	研究の立案、実施、分析、論文執筆、発表準備						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	平常点20%、論文60%、発表20%						
教科書	使用しない						

参考書	
-----	--

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	対人コミュニケーション論						
担当教員	待田 昌二						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜1	配当学年	2~3	単位数	2.0
授業のテーマ	対面的コミュニケーション、特に非言語コミュニケーションの理解						
授業の概要	我々は人と出会ったときにまず外見から、次いで言葉、表情、動作などから情報を得、同時に自分自身も多くの情報を発している。情報の発信と解読はほとんど無意識的に行われている。このような過程、特に非言語コミュニケーションについて学んでいく。人間のコミュニケーションの能力は進化の過程で獲得してきたものなので、動物のコミュニケーションと比較しながら理解を進める。急速に変化する現代社会は人類の歴史において非常に特殊な社会である。例えば、ほとんど全員が顔見知りというコミュニティにおける生活から、見知らぬ人間と頻繁にコミュニケーションを行い、新しい関係を作り上げていく生活に変わった。このような現代社会のコミュニケーションの問題点についても考えていく。						
到達目標	対面的コミュニケーション、特に非言語コミュニケーションについて理解し日常のやり取りにおいても分析的視点を持てるようになること。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクションー非言語的コミュニケーションの重要性 2. 姿かたちーなぜヒトは顔にこだわるのか 3. 姿かたちーなぜさまざまな姿かたちがあるのか 4. 姿かたちー顔立ちから性格はわかるか 5. 姿勢としぐさー感情の表出 6. 姿勢としぐさー様々なしぐさ 7. 表情ー表情とは何か 8. 表情ー笑い 9. 情動反応 10. 視線ー動物における重要性、子どもの発達と視線 11. 目は心の窓 12. 目は心の窓の補足と第1回試験 13. 印象操作ー服装・髪型 14. 会話ー会話における非言語的コミュニケーションと第1回試験の解説 15. 質疑応答と第2回試験 						
授業外における学習（準備学習の内容）	毎回の授業内容を試験に結実させるよう復習し、身近な問題に結び付けて考える。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	授業時に毎回提出する小課題50%と試験50%						
教科書	使用しない						
参考書	Web上で紹介している。「神戸松蔭心理学のページ」で検索するか、松蔭CampusLinkから、「心理学のページ」→「授業関連」→「参考図書紹介(待田)」→「非言語的コミュニケーション」						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	データ処理法						
担当教員	土肥 伊都子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	3~4	単位数	2.0
授業のテーマ	SPSSを用いた、データの処理法の習得						
授業の概要	社会意識を質問紙によって調査し、分析するための知識を習得することが、本講義の目的である。まず、受講生が各自の調査目的にそって社会意識を概念化し、分析モデルを立て、質問紙を作成する。尺度構成の方法についても習得する。次に、サンプルの調査データ(JGSS)を、受講生自身の問題意識にそって分析し、結果をまとめる。また、多変量解析についても、JGSSデータをSPSSによって分析することを通して習得する。						
到達目標	質問紙データを適切な方法で分析、解釈、報告できるようにすること。						
授業計画	第1回 オリエンテーション 質問紙調査の概要・概念化と分析モデルの作成 第2回 質問紙調査の手順 第3回 質問項目の作成と尺度 第4回 データの入力と加工、JGSSデータについて 第5回 単純集計 第6回 グラフ 第7回 代表値とばらつき 第8回 複数回答データ 第9回 クロス集計と関連性を表す統計量 第10回 統計的推定と検定の考え方 第11回 適合度・独立性・比率の差の検定 第12回 t検定と分散分析 第13回 重回帰分析 第14回 因子分析 第15回 筆記試験						
授業外における学習(準備学習の内容)	教科書の該当部分を予習しておく。 授業中の課題を各自で再度、データ分析しておく。						
授業方法	SPSSを用いた、実習を交えながらの講義 毎回、プリントを配布する。						
評価基準と評価方法	平常点30%、定期試験70%						
教科書	岩井紀子・保田時男 「調査データ分析の基礎」 有斐閣						
参考書							

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	トラウマの心理学／心理療法V						
担当教員	大澤 香織						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	3～4	単位数	2.0
授業のテーマ	トラウマがもたらす心理的・社会的問題とその解決を目指した心理学的アプローチ						
授業の概要	自然災害が多いわが国では、トラウマの問題は決して「対岸の火事」ではありません。また、近年虐待や暴力、いじめなどの問題がクローズアップされています。その体験がトラウマとなり、後遺症に悩まされる人も少なくありません。しかし、トラウマがもたらす問題やその解決方法（治療法）について、多くの人が十分に理解できているとはいえない現状にあります。本講義では、トラウマが体験者にもたらす心理的・社会的問題を取り上げ、その問題を解決する上で有効な心理学的アプローチ（心理療法）について紹介します。						
到達目標	トラウマがもたらす心理的・社会的問題について理解を深め、これらの問題にどのように対応すべきかを知ることができます。これらの知識は、心理学的援助のスペシャリスト（臨床心理士など）や、子どもと触れ合う機会が多い職業（教員など）を目指す人に大いに役立ちます。また、トラウマの問題に悩まされる前の予防策や、悩んでいる人が身近にいた場合の対応・援助方法などについて考えることもできるようになります。						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 トラウマとは何か？：トラウマの歴史的背景 第3回 トラウマの記憶がもたらす問題とその解決アプローチ（1）心理教育 第4回 トラウマの記憶がもたらす問題とその解決アプローチ（2）対処法のワーク 第5回 トラウマの問題に対する予防的アプローチ（1）Psychological First Aid 第6回 トラウマの問題に対する予防的アプローチ（2）ストレスマネジメント 第7回 トラウマティック・ストレスの治療法（1）認知行動療法の理論と技法 第8回 トラウマティック・ストレスの治療法（2）TF-CBTの紹介（認知処理療法など） 第9回 トラウマティック・ストレスの治療法（3）その他の心理療法（EMDRなど） 第10回 子どもが抱えるトラウマの問題 第11回 子どものトラウマに対する治療法（1）子ども向けのTF-CBT 第12回 子どものトラウマに対する治療法（2）学校ベースでのアプローチ 第13回 子どものトラウマに対する治療法（3）プレイを用いた方法 第14回 トラウマの問題に対するコミュニティアプローチ 第15回 まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：授業計画に書かれているものをキーワードに、その関連図書やニュースなどに目を通してみて下さい。映画や小説、漫画でもかまいません。 授業後学習：学んだ内容をまとめ、要点整理をしましょう。試験対策につながります。また、担当教員からの推薦図書を読んでもみると、授業内容の理解が深まります。						
授業方法	講義と簡単なワーク						
評価基準と評価方法	試験50%、平常点50%（遅刻は減点対象。担当教員の許可なき早退は欠席扱い）						
教科書	特に指定しません。配布資料を用いた授業が中心となります。						
参考書	授業内で適宜紹介します。						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	認知心理学						
担当教員	中尾 美月						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2~3	単位数	2.0
授業のテーマ	人の認知の特徴やしぐみについて理解する。						
授業の概要	認知とは「知る」ことである。 人は「こころ」を通して、外界を、他者を、そして自分自身を認知している。 この授業では、認知の基礎的なメカニズムを学ぶことによって、「こころ」の不思議さを実感し、 人に対するより深い理解と関心を持つようになることを目指す。						
到達目標	人の認知がいかに主観的なものであり、 対象をありのままに捉えていないということを体験的に理解できるようになる。 さらには「認知が変われば人生が変わる」をキーワードに、よりよく生きるためのヒントが得られる。						
授業計画	第1講 認知心理学とは 第2講 知覚1 知覚の不思議 第3講 知覚2 光と色の心理学 第4講 知覚3 三次元の世界 第5講 記憶1 自由再生の実験からわかること 第6講 記憶2 感覚記憶と短期記憶 第7講 記憶3 長期記憶 第8講 推論と思考 サバイバルゲーム 第9講 心の病と認知1 ストレスと認知 第10講 心の病と認知2 うつと認知 第11講 心の病と認知3 認知療法 第12講 社会的認知1 自己認知とアサーション 第13講 社会的認知2 他者認知 第14講 まとめと試験 第15講 試験解説						
授業外における学習(準備学習の内容)	授業で学んだ内容を自分の日常生活に生かそうとする姿勢を歓迎する。						
授業方法	講義形式で行うが、適宜、体験学習を取り入れる。 基本的にパワーポイントと配付資料で授業を進める。						
評価基準と評価方法	期末試験の成績を100点満点とし、欠席回数に応じて2点ずつ減点する。 期末試験では、客観式問題70点、論述式問題30点として採点する。 出席状況は毎回配布する感想カードで確認する。なお、感想カードに書いた内容は評価に影響しない。						
教科書	テキストは使用しない。毎週、資料を配布する。						
参考書	参考文献は必要に応じて適宜紹介する。						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	発達心理学A/発達心理学I						
担当教員	久津木 文						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	発達心理学（新生児～幼児期）						
授業の概要	人の生涯に渡る変化を扱うのが発達心理学であり。現在、その対象は生まれる前から死に至るまでを含む。本講義では主に、新生児期から幼児期までの発達を中心に扱う。						
到達目標	生まれたばかりの赤ちゃんから幼児になるまでの成長過程の主に認知的側面を理解できるようになる。						
授業計画	1 オリエンテーション 発達とは 2 発達の仕組みと様相 3 乳幼児発達心理学の研究法 4 遺伝と環境 5 胎児期・新生児期 6 乳幼児期の運動発達 7 乳児期～物理的認知 1 8 乳児期～物理的認知 2 9 乳児期～情動・愛着の発達 10 乳児期～コミュニケーションの芽生え 1 11 乳児期～コミュニケーションの芽生え 2 12 幼児期～社会性の発達 13 幼児期～表象の獲得 14 試験 15 試験の復習						
授業外における学習（準備学習の内容）	発達心理学関係の教科書・テキスト（図書館に複数蔵書あり）を読んでおくこと。						
授業方法	講義方式						
評価基準と評価方法	平常点（授業態度等）30%、期末テスト70% 出欠状況・欠席の連絡や成績、補講時間についてのメールの問い合わせは受け付けません。 * 補講時間・場所などはポータルを確認のこと。 * 出欠・欠席連絡・成績については、直接、授業前・後に話をしに来ること。 アポは下記アドレスにメールを送ってとってください。 ayakutsuki[at]shoin.ac.jp * [at]を@に置き換える。						
教科書	適宜紹介する						
参考書	適宜紹介する						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	発達心理学B／発達心理学II						
担当教員	久津木 文						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	発達心理学（幼児期～成人、高齢期）						
授業の概要	人の生涯に渡る変化を扱うのが発達心理学であり、現在、その対象は生まれる前から死に至るまでを含む。本講義では主に、幼児期のコミュニケーション発達から児童期、そして大人になってからの発達の变化を含む。本講義を履修の際には「発達心理学A」をすでに履修しているか、「発達心理学A」で概説されている内容を図書などで理解しておくことが強く求められる。						
到達目標	幼児期の心の理論や社会性の獲得についての理解ができるようになる。 青年期～高齢期の心理的・身体的な衰えを含む変化についての理解ができるようになる。						
授業計画	1 オリエンテーション これまでのおさらい 2 幼児期～言語の獲得 1 3 幼児期～言語の獲得 2 4 心の理論の発達 1 5 心の理論の発達 2 6 児童期～認知・思考 7 児童期～対人関係の形成・道徳の発達 8 青年期～身体と心・アイデンティティの統合 9 成人期～社会経験の開始 10 成人期～結婚と恋愛 11 壮年期～親になること 12 中年期～社会的役割の変化 13 老年期～継続する変化 14 試験 15 試験の復習						
授業外における学習（準備学習の内容）	該当分野についてのテキスト・教科書（図書館に複数蔵書あり）を自主的に読んで理解を深めることが必要。						
授業方法	講義方式						
評価基準と評価方法	平常点（授業態度等）30%，期末テスト70%						
教科書	適宜紹介する						
参考書	適宜紹介する						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	被害者支援の心理学						
担当教員	大和田 攝子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	3~4	単位数	2.0
授業のテーマ	被害者支援について学ぶ。						
授業の概要	被害者支援において、法的な問題や経済的な問題と同様、心理的な問題が重要な位置を占めることは言うまでもない。しかしながら、被害者の心の問題に対する支援体制は未だ整っていないのが現状である。本講義では、まず被害者支援の歴史や被害者支援の現状を理解する。そして、犯罪被害者への心理的支援に関する基本的枠組みについて学習したうえで、さまざまな犯罪被害における心理的問題とその対応について解説する。さらに援助者が受けるストレスとその対応についても触れる。						
到達目標	被害者の心理と支援について具体的に学ぶことで、実際に身近に起こったときにどのようにすればよいか学ぶことができる。						
授業計画	第1回：被害者支援とは 第2回：被害者支援の歴史 第3回：被害者の抱える心理的問題 第4回：被害の体験を聴く（ゲスト・スピーカーによる講話） 第5回：被害者カウンセリングの基本 第6回：PTSDの治療 第7回：各論：遺族の心理的問題と対応（1） 第8回：各論：遺族の心理的問題と対応（2） 第9回：各論：性暴力被害者の心理的問題と対応 第10回：各論：虐待被害を受けた人の心理的問題と対応 第11回：各論：DV被害者の心理的問題と対応 第12回：援助者のストレスと対応 第13回：グループ発表と討議（1） 第14回：グループ発表と討議（2） 第15回：質疑応答と定期試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	参考書を事前に読んでおくことが望ましい。また、授業では小グループでの発表を予定しているので、被害者支援に関する具体的な事例を調べ、まとめておくこと。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	試験（60%）や授業中に出す課題の提出（20%）、平常点（20%）などを総合的に評価する。						
教科書	プリントを使用する。						
参考書	小西聖子（編著）『犯罪被害者のメンタルヘルス』 誠信書房 ISBN978-4-414-40047-2						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	非行・犯罪心理学						
担当教員	福本 純一						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	3~4	単位数	2.0
授業のテーマ	犯罪に関する人間行動の実証的知見を学ぶ						
授業の概要	犯罪心理学という犯罪者や非行少年の心を読み解く臨床心理学的側面に焦点が注がれがちであるが、近年の行動科学研究の進展は、犯罪における心理学の守備範囲を大きく広げた。本講義では、体感治安と深く関連する窃盗など身の回りの犯罪をとりあげ、犯罪と対峙する現場で見聞した事例を交えながら、犯人行動の分析や心理学を用いた犯罪捜査支援を中心に、アカデミックな犯罪心理学とは異なった切り口で、犯罪発生メカニズムから被害防止まで基礎的知識を幅広く紹介する。						
到達目標	犯罪という現象を実証的な知見に基づいて多面的に理解できるようになるとともに、犯罪の実態を認識し、犯罪からの安全・安心な暮らしの作法を学ぶことができる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 インTRODakション ～犯罪・非行を犯す原因は何か（犯罪発生メカニズム） 2 環境犯罪学の理論 ～伝統的な犯罪原因論から犯罪機会論に 3 現代の犯罪情勢 ～犯罪統計と体感治安 4 初発型犯罪 ～「万引き」、「ひったくり」のフィールド研究 5 詐欺 ～オレオレ詐欺にみる心理戦略 6 ストーカー犯罪（1） ～ストーキングの概念とストーカーの心理 7 ストーカー犯罪（2） ～事例からみるストーカーの分類 8 薬物濫用 ～薬物依存メカニズム 9 復讐型犯罪 ～無差別殺傷事件と自己愛型社会 10 捜査と心理学（1）－プロファイリング ～プロファイリングの基礎理論と犯罪者の行動パターン 11 捜査と心理学（2）－プロファイリング ～犯罪者プロファイリングの実際 12 捜査と心理学（3）－精神生理学的虚偽検出 ～ポリグラフ検査の基礎理論 13 捜査と心理学（4）－供述の心理 ～なぜ無実のヒトが自白する 14 犯罪被害者と報道（期末レポート提出） ～犯罪報道に求めるもの 15 補足とまとめ 						
授業外における学習（準備学習の内容）	<ul style="list-style-type: none"> ・配布された資料は、事後きちんと目を通し復習することで理解が深まる。理解できなかったことや疑問は、次の授業で質問し、問題点を解決する。 ・事前準備は特に必要ないが、時々タイムリーな話題も取り上げるので、ニュースや新聞記事に日頃から目を通しておく。 						
授業方法	基本的には講義形式で、パワーポイントを使用する。						
評価基準と評価方法	期末レポート、理解度把握のため行うミニレポート(若しくはミニテスト)及び平常点(出席、授業態度)を総合的に評価して判断する。評価目安：期末レポート60%、ミニレポート(若しくはミニテスト)20%、平常点20%						
教科書	テキストは使用せず、適宜、教材プリントを配布する。						
参考書	『犯罪心理学』 越智啓太 編 (朝倉書房) 『犯罪心理学』 大淵憲一 著 (培風館) 『犯罪捜査の心理学』 越智啓太 著 (化学同人)						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	臨床心理学A／臨床心理学I						
担当教員	中村 博文						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	臨床心理学とは何か						
授業の概要	本講義では、様々な臨床心理学の基礎理論を学ぶとともに、具体的な心理学的問題をどのように理解し、その改善にどのように働きかけていくかについて学習する。また、臨床心理行為を行うために必要な教育・訓練、および倫理的問題についても学習する。						
到達目標	臨床心理学の大まかな全体像を、把握することができる。						
授業計画	#01：オリエンテーション－臨床心理学とは何か #02：臨床心理学の基礎理論①：精神分析 #03：臨床心理学の基礎理論②：行動療法 #04：臨床心理学の基礎理論③：認知（行動）療法 #05：臨床心理学の基礎理論④：人間性心理学 #06：臨床心理学の対象①：神経症・精神病 #07：臨床心理学の対象②：人格障害 #08：臨床心理学の対象③：発達障害 #09：ライフサイクルと臨床心理学①：乳幼児期・児童期 #10：ライフサイクルと臨床心理学②：思春期・青年期 #11：ライフサイクルと臨床心理学③：成人期・老年期 #12：臨床心理学的アセスメント #13：臨床心理行為と倫理 #14：まとめ、試験 #15：試験解題						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業各回のテーマについて、配布資料に記載されている参考文献を読み、理解を深めることを求める。						
授業方法	講義形式。 毎回授業の最後に、小レポート（問いに対する回答、質問、感想）の提出を求める。						
評価基準と評価方法	毎回の小レポート（14%）、および期末試験（86%）により評価する。						
教科書	必要に応じて、プリントを配布する。						
参考書	適時紹介する。						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	臨床心理学B／臨床心理学II						
担当教員	大和田 攝子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	臨床心理学の基礎を学ぶ。						
授業の概要	臨床心理学が対象とするさまざまな心理的問題について広く学習し、それらの見立てに必要な基本的知識の習得を目指す。特に、ライフサイクルの視点から、年齢段階ごとの発達課題と関連して生じやすい問題・病理の特徴をおさえ、さらに具体的な事例を取り上げて、その理解と対応について解説する。						
到達目標	臨床心理学が対象とするさまざまな心理的問題について理解できるようになる。						
授業計画	第1回：ライフサイクルにおける発達課題 第2回：乳幼児期の心理的問題と対応 第3回：幼児期の心理的問題と対応 第4回：児童期の心理的問題と対応 第5回：思春期の心理的問題と対応 第6回：青年期の心理的問題と対応 (1) 第7回：青年期の心理的問題と対応 (2) 第8回：青年期の心理的問題と対応 (3) 第9回：青年期の心理的問題と対応 (4) 第10回：成人期の心理的問題と対応 第11回：中年期の心理的問題と対応 第12回：老年期の心理的問題と対応 第13回：グループ発表と討議 (1) 第14回：グループ発表と討議 (2) 第15回：質疑応答と試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業で取り上げるテーマは限られているので、それを補完するために小グループでの発表を予定している。各自が興味のあるテーマについて調べ、レジュメにまとめること。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	試験（60％）や授業中に出す課題の提出（20％）、平常点（20％）などを総合的に評価する。						
教科書	プリントを使用する。						
参考書	授業中に紹介する。						